

57ヶ国語、300万部出版



Your Quest for God 神を探す旅

リチャード ベネット博士の経歴は、都市計画者として始まりました。その職業訓練の最中に、ベネット氏は人生を変えられてしまう形で、神の力と出会いました。続いて、彼はアメリカで聖書の勉強を進めるために、イギリスの市議会の地位を退職しました。

ベネット氏は熱意に満ちた一般信徒として始まり、1946年以来、鑑賞力のある聴取者達に聖書を教えてきました。そのうちの20年間、彼の声は定期的に、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、中央アメリカ、南アメリカで、トランスワードラジオとファーイースト放送局を通して聞かれてきました。

リチャードとドロシーは1958年に結婚して以来、夫婦ともに喜んで神に仕えています。ドロシーはリチャードの側にいながら、しかし、彼女自身、とても影響力のある婦人のミニストリーを行っています。

最近になって、リチャードとドロシーの相談会のミニストリーは、今まで誰も訪れたことのない人々や、国々にまで範囲がひろがってきました。発展途上国に訪問中、霊的に飢え乾いている多くの国民に出会うことは、彼らにとって大きな喜びです。しかし、同じ人間でありながら、貧困と飢えと窮乏のために品性を落としてしまった多くの人々を見てきて、彼らの喜びは悲しみと混じり合っていました。それらの人に対する神の愛は、リチャードとドロシーが霊的にそして、物質的に彼らに助けを切り開く動機となりました。

けれども、ベネット夫妻は発展途上国だけでなく産業化された国々でも急増する、神との親密な関係を内面的に求める多くの人との出会いもうれしく思っています。その多くの人は、疑問を持っていました。

人生で一番重要な質問に、信頼できる答えはあるだろうか？リチャード氏は、神ご自身がその答えを出してくださると確信しています。それが「神を探す旅」を彼が書いた理由です。

「これこそ、私が20年間、祈り願ってきた本です。」
G. ヴァーワー
オペレーション モービライゼーション創立者、会長



ISBN 1-57736-114-8



CROSS CURRENTS INTERNATIONAL MINISTRIES

リチャード
ベネット

神を探す旅

Your Quest for God 神を探す旅



リチャード
A. ベネット

CCM

*Your
Quest for
God*

神を探す旅

神を探す旅

リチャード・ベネット著

Cross Currents International Ministries

www.ccim-media.com

Copyright ©1985, 1988, 1997, 1998, 2003, 2006
Cross Current International Ministries.
Japanese Copyright © 2007, 2010

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted by any means, without prior written permission of Cross Currents International Ministries, P.O. Box 1058, Lynden, WA 98264
www.ccim-media.com

Printed in the United States of America

Library of Congress Catalog Card Number: 98-67799

ISBN: I-57736-114-8

本書における聖書の引用は、いのちのことば社「新改訳」を使用。

Scripture Quotations are from “New Japanese Bible”, published by Word of Life Press, Tokyo Japan. Used by permission.



妻ドロシーの励ましと愛、そして、彼女の犠牲と祈りがなければ、
本書は書かれませんでした。パウロがフィベについて語った言葉は
そのままドロシーにあてはまります。

「この人は、多くの人を助け、
また、私自身をも、助けてくれた人です」



目次

序文	9
前書き	11
第一章 神は本当に存在するのか？	17
第二章 あなたの霊的ガイドは信頼できるか？	25
第三章 神はどのようなお方なのだろうか？	39
第四章 人々を本当に分け隔てるものは何か？	49
第五章 本当の問題とは何か？	63
第六章 なぜ人はそこまで誤って導かれるのか？	73
第七章 神は本当に私を愛しているのだろうか？	85
第八章 どこで命を見つけることができるのか？	111
第九章 どうしたら神の家族の一員になれるのか？	125
第十章 次には何があるのか？	137
私の信仰の献身	149

Your Quest For God

序文

私は本書「神を探す旅」を、心から推薦します。まず、私はこの著者をよく知っています！ベネット博士は、キリスト信仰における、私の霊的な息子なのです。「私の子供たちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」
(第三ヨハネの手紙4節)

次に、客観的理由として、ベネット博士は本書を通じ、神と人間の関係の本質的要素を、明確かつ簡潔に、説得力ある文章で表すという、素晴らしい働きを成したためです。

「神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた」（伝道者の書3章11節）と、聖書は語っています。従って人間は本来、永遠のために造られているので、時と共に移り変わり、やがて滅びてしまうような事柄によっては、完全な充足感は得られないということになります。人の心には空洞があり、神にしかそれを埋めることができません。聖アウグスチヌスはこれを見事に表現しました。「ああ、神よ。あなたは人間をあなた御自身のために造られました。我らの魂はあなたの中に憩うまでは、静かに安らぐことがありません」。本書は、永遠の神との、生きた個人的な関係の中に、私達が安らぎを見出すまで、探求することをお手伝いしてくれませぬ。

多くの方々が本書を読み、神の栄光と、私達人間の永遠の利益を説明しているメッセージに、注意して耳を傾けるように、切に祈ります。

スティーブン・F・オルフォード博士
テネシー州メンフィスにて

前書き

妻ドロシーと私は、二人の人生の長い旅路で、公道やわき道で、多くの友人たちに出会いました。これらの友人たちは、異なる文化・経済的背景、教育レベルの方たちでした。

そのいずれの出会いも、偶然だとは思いません。また、この小さな本が今、あなたの手の中にあることも、決して偶然だとは思いません。

長年に渡り、多くの友人たちと交わした会話の中心でもあり、最も重要であったのは、神を探し求めることでした。そこで分かち合ったことの一部は、本書に収められています。

後に改訂版が作られた「神を探す旅」の第一版は、神への感謝を表すために、個人で出版しました。私とドロシーは、結婚 25 周年を迎えようという時、神が私達に良くしてくださっていることに対する感謝を、どうしたら最も有効に表現できるかを考えました。

その結果、希望と平安を与えるメッセージを書いてそれを印刷し、2万 5,000 人に配布すること以上に素晴らしいことはないと思いました。つまり、結婚生活 1 年につき、千人に向けたプロジェクトという計算です。

神は、この小さな愛の働きを祝福し、この本が文字通り世界中に届けられるようにしてくださいました。2万 5,000 部全てが、多くの国々の人たちに直接手渡されたのです。この本を読んで、人生に新たな目的を見出した、という手紙を受け取ることにまさる喜びはありません。

本書の他の言語への翻訳の要望がたくさん届きました。そこで、更に世界の多くの人たちが、神を探し求める時、その助けになるようにと祈りつつ、第一版の改訂版が完成しました。その結果、50カ国語に翻訳され、3百万部以上印刷され、広く配布されました。そして今、この改訂第五版が、更に多くの読者に助けとなるよう、祈ります。

本書の第二章までは、全ての読者に等しく関係するものではないでしょう。第一章は、神の存在そのものに疑問を持っている読者の皆さんに向けられています。一方、第二章は、あらゆることに疑念を抱き、質問したくなる人にとって、特に興味深いことでしょう。ですが、この第二章は、実は、全ての読者にとって重要です。なぜなら、自分が信じていることや、自分の態度を評価するよう、一人一人に勧めているからです。

これらの前置きにあたる章は、本書全体に通じるテーマを理解するために欠かせません。なぜなら、それに続く章の内容を信頼できるものとする礎となっているからです。第三章から第十章は、神を探し求める上で、役立ち、助けになる基本的な真理を含んでいます。この新たな改訂版が祝福されるように、常に最善を成してくださる神の御手（みて）の中に、これを喜んでおゆだねいたします。

ドロシーも私も、個人的な神との体験を私達と分かち合っただけでなく、多くの特別な方々の愛、祈り、そして洞察のゆえに、神に感謝し、それをここに記したいと思います。その数はあまりにも多いため、本書で一人一人の名前を挙げて紹介することはできませんが、これらの友人たちに、ここで心から感謝の意を表したいと思います。

神を探す旅

「地質学は地球の自叙伝と言えるが、自叙伝の常にならい、
その始まりまで溯(さかのぼ)って記録してはいない」

チャールズ・ライエル卿

“Geology is the autobiography of the earth
but, like all autobiographies,
it does not go back to the beginning. ”

Sir Charles Lyell

第一章

神は本当に存在するのか？

今まで生きてきた中で、あなたの人生があまりにも荒涼とし、何もかもがすさんで見え、神の愛を疑うどころか、神の存在自体を疑った時が、何度かあるかも知れませんね。

聖書は、神が実存するかどうかについては説明していませんし、神の存在を証明していません。神の存在を当然の前提としています。聖書は「初めに、神が天と地を創造した」（創世記1章1節）¹という言葉で始まります。まさに単純明快かつ非常に深遠な、見事な声明です。神が存在し、全宇宙を造られた方であることを宣言しているからです。

何年も前に、妻ドロシーは、欧州で最も有名な精神病院のうちの一つの病院で看護婦長を務めていました。ある日、無神論者を自称する有名な精神科医が、ドロシーの信仰に質問を投じました。するとドロシーは答えました。「先生、私は、先生を精神医学分野の第一人者として大変尊敬しています。先生は有名大学の講師であり、医学界でも広くお名前が知られています。しかし、私が提案させていただいてもよろしいでしょうか。ご自分が無神論者であるともう一度おっしゃる前に、精神医学に対する熱意と同じぐらい熱心に、聖書をお読みになってみませんか？」

ドロシーは更に、神の力で人生が一変したため、慢性病患者病棟から退院し、既に生産的な生活ができるほど目覚ましい変化を遂げた、数人の患者の名前を挙げました。彼女は精神科医に、その患者たちが、個人的かつ活気に満ちた方法で神と出会い、神を知る

¹ 訳者注。本書では聖書からの引用に関し、例えば、（創世記1章1節）の様に、引用箇所を記しています。

ようになった様子を、続けて説明しました。彼らは、最先端の精神医学療法でさえ歯が立たなかった者たちで、誰よりもそれをよく知っていたのがこの医師だったのです。それでいて、変えられた患者の人生に起こった現象については、無神論者としても精神科医としても、何の説明もできませんでした。

すると、さっきまで「神を信じない」と断言していた当の医師が、ドロシーに自分のために祈ってくれと頼んだのです！また、生まれて初めて、心を開いて聖書を読んでもみると約束してくれました。

聖書を注意深く読むようになって七週間後、医師はドロシーに、自分はもう無神論者ではない、と告げるに至りました。しかし、彼には不都合な問題がありました。この医師は、神を心から信じるには、これまでの生活習慣も変えなければならないと気づいたのです。彼は、「私の問題はもはや知的レベルのものではない」と認めるようになりました。そして、「献身した信者になった時に起こる変化を受け入れたくない気持ちがある」と打ち明けてくれました。

この友である医師のために十年間祈り続けたところ、「新しく信仰を見出し、個人的に神に献身するに至った」と報告する手紙をとうとう受け取りました。この知らせに私達は大いに喜ばせられました。余り驚きはしませんでした。なぜなら「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」（ローマ人への手紙 10 章 17 節）ということを知っていたからです。

神は、人が神を知ることができるように、一人一人の内側に、神が存在することを深く認識できる心を植えつけてくださっています。

神を信じないと選択する人もいるでしょう。しかしこの地球上には、神を信じることができない人間など、決して一人もいないのです。

宇宙の中にさえも、神は御自身の存在を示す物理的証拠をたくさん残してくださっています。21世紀の科学が宇宙の謎に近づけば近づくほど、「設計した者（デザイナー）」なしに、全てがいきなり存在するようになった、という仮説は不合理になってきました。創造的で、天才的な設計者、技術者、数学者らの結集なしに、スペースシャトルが宇宙へ飛び立ち、軌道に乗り、特定の時間に特定の場所に着陸することなど、誰も思いつきません。同じく、日没や季節、銀河、原子、引力、そして、愛の力は、創造主たる神の御計画と設計なしには、決して存在しないのです。

秩序のある完璧な天地の創造を“ビッグバン”の所産だと信じるほうが、神が創造主だと信じるより、確かに百万倍も強い信仰心を要します。まず設計者が存在しなければ、設計が存在することなどあり得ないからです。

神の存在を否定する政府でさえ、宇宙飛行士を宇宙に送り出すたびごとに、宇宙が一つの法則と秩序で成り立っていることへの確信を現実に表示しているのです。宇宙の法則に従って初めて、宇宙飛行士たちは無事地球に帰還できるのです。ならば、自然の法則を信頼している人々が、法則の造り主の存在、すなわち至高の設計者の存在を鼻から否定するのは、おかしいことではありませんか。

原子爆弾が爆発する時、強力な破壊的エネルギーが放出されることは周知の事実です。一方、太陽は毎秒、原子爆弾5兆個分に相当する、とてつもない力を発散していると計算されています。それでも、強大なエネルギーを放つ他の星と比較すると、太陽はそ

れほど大きくありません。更に人間は、実際に宇宙にどれほどの数の星が存在するのかを、完全に把握しているわけでもありません。何億何兆という星が確認されていますが、それらの星も、限りない未知の世界の外辺に過ぎないかもしれないのです。今日、天文学者の発見で、銀河系には太陽の数十億倍のエネルギーを放出する星もあると判明しました。そのような力が、無限の力を持つ創造主の存在なくして生じることなどあるのでしょうか。

まことに、全ての被造物は、設計者であられる神、法則であられる神、無限の力を持たれる神を私達に紹介しています。聖書はこう述べています。

「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手（みて）のわざを告げ知らせる。昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。」（詩篇 19 篇 1～4 節）

「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められているのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」（ローマ人への手紙 1 章 20 節）

ですから、神の存在を否定するための言い訳は、どこの誰であってもできません。

神の創造の雄大さ、秩序、力に思いをはせる時、多くの人は、「自分はなんと小さく無価値な存在だろう」と感じます。

イスラエルのダビデ王も、神の創造の業に対して感じた気持ちを、次のように表現しています。

「あなたの指のわざである天を見、あなたが整えられた月や星を見ますのに、人とは、何者なのでしょう。あなたがこれに心を留められるとは。」（詩篇 8 篇 3、4 節²）

今日、巨大な天体望遠鏡が宇宙への視界を 50 万倍以上も広げ、宇宙を飛行する衛星が地球に映像を送信することで、私達の天体に関する知識は増大しました。その結果、ダビデ王と同じように、——「こんなちっぽけな私に、神が興味を持つことなどあるのだろうか？」——と、問いかけたくなるのではないのでしょうか。

幸いにも、天体望遠鏡の時代は、顕微鏡の時代でもあります。今日、肉眼では見えないミクロの世界が存在し、広大な宇宙と同じく驚異の世界であることを私達は知っています。光の筋さえも、この微少の世界の神秘をあらわにするには粗過ぎるのです。従来の顕微鏡では見えなかった領域も、高性能の電子顕微鏡で観察できるようになりました。これにより、無限の極小の世界を構成する美、設計、法則、力の存在が明らかにされています。

神が果たして私のような小さな存在を気にしてくれているだろうか、と考えたことがあるなら、宇宙全体を維持するために、微少の世界がいかに重要な役割を担っているかについての核物理学者の説明を聞いてください。なんと、原子を構成する中性子と陽子を、わずか 1 インチ（=約 2.54 センチ）の 12 兆分の 1 という距離を離しただけで、この世界はもはや結合し続けることはできず、宇宙規模の核爆発が生じるそうです。そうです、創造の神にとっては、小さいことも、大きいことと同様に重要なのです。

² 訳者注。本来ヘブライ語、アラム語、ギリシャ語で書かれた聖書の本文には、章数、節数はつけられておらず、翻訳によっては節の番号の振り分けが他の訳と若干ずれる場合があります。例えば、旧約聖書の詩篇の 8 篇からここに引用されている部分は、新改訳では 8 篇の 3 節と 4 節になっていますが、新共同訳ではこれらは、4 節と 5 節として数えられています。しかし、重要なのは、聖書が伝えるメッセージとその真理の内容は、翻訳の別にかかわらず、変わるところがないという点です。

「あなたが御心（みこころ）に留めてくださるとは、人間とは何者なのでしょう」と疑問に思う時、「人間の大きさが人間の価値を決めるのではない」ということを知って安心することができます。反対に、神にとって私達個人の価値は、いくつかの非常に異なった要素に基づいているのです。そして、神は、なぜ私達が神の目に高価で尊い者であるかを明らかにしてくださいました。

創造の業（わざ）自体は、神ご自身が「設計の神」「法則の神」「力の神」であることを示しています。しかし、神は、私達に最善以外はお望みにならない「無限の愛とあわれみの神」であることを、別の方法でお示しになりました。「私もそのような神を発見してみたい！」と思うなら、まずは、あなたの霊的なガイドが完全に信頼できるものである必要があります。

考えてみましょう

1. 片手いっぱいの鉄くずを、空中に放り投げて、それがスイス製の時計になって落ちて来ることを、あなたは期待するでしょうか？
2. 驚異的で緻密なデザインで造られている宇宙は、創造主である神なしに、ただ自然に発生したのでしょうか？
3. 被造物を通して、創造主なる神が、「設計の神」「法則の神」「力の神」であることが示されています。しかし、それだけであなたが神の愛とあわれみを理解するために、十分でしょうか？

暗い洞窟も、たいまつを携えて入った人には、簡単に歩める。

プラトー

A dark cave can easily be traversed by one
who has entered it with a torch.

Plato

自然は、洞窟の出口からぼんやり漏れる薄明かりである。

しかし、たいまつは、聖書のみことばそのものである。

A.H.ストロング

Nature is the dim light from the cave's mouth; the torch is Scripture.

A.H. Strong

第二章

あなたの霊的ガイドは信頼できるか？

以前、レーダーの誤りが原因で多くの人命を奪った飛行機事故の悲劇について、驚くべき事実を新聞は詳述していました。この悲劇的な事故も、霊的惨事へと導く誤った霊的レーダーに信頼を置いた時とを比較すると、取るに足りないものへと色あせてしまいます。

今日、世界には、それぞれ矛盾する多くの声が溢れ、人々を混乱させています。いずれも、自分こそが神への導き手だと主張しています。本当に信頼できるのはどれなのか、どのように見極めるのでしょうか。あなたが神を探し求める時、誤った声についていく余裕はありません。なぜならそのミスは、永遠に続く問題になり得るからです。

イギリスのグラッドストーン元首相はこう記述しました。「聖書は起源という特性で印を押されており、他のいかなる競争相手からも、はかり知れない距離をもって引き離されている。」

アメリカのアブラハム・リンカーン大統領はかつて、「聖書は、神が人に与えられた最善の贈り物だ」と述べました。

他にも、歴史に名を残す多くの偉人が、聖書がユニークな書物であり、真に聖書そのものの記述に依存していることを証言しています。

ダビデ王は、自分の霊的ガイドの信頼性について明言しました。「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」
(詩篇 119 篇 105 節)

今日に至るまで、多くの人々が、聖書こそが神への導き手として信頼できることを見出しています。反面、聖書の信頼性を突き崩そうとする試みがあったにもかかわらず、聖書は今までもそうであったように、今日も堅く忠実に立ち続けています。聖書は世界の書物の中でも、実にたぐいまれな書物です。

聖書が特殊であると同時に権威ある書物である、という保証が人々には必要なので、神は、聖書こそが神の言葉そのものであることを証明する、多くの印を聖書に押しつけています。聖書に記された出来事を、歴史的資料に照らし合わせると、素直に求める者は、「聖書はすべて神の靈感によるもので」ある（第二テモテへの手紙 3 章 16 節）、という事実の裏付けが山ほどあることを発見することでしょう。

もし聖書が一人の著者によって書かれたのなら、徐々に規則正しく展開されているテーマを見出しても驚くには及びません。しかし、この本の中の本、聖書は一人の人物によって書かれたものではありません。実際、数世紀にまたがる長い時間の流れの中、文化背景が異なる複数の記者たちによって書かれたのです。にもかかわらず、その内容は一貫した秩序ある独特な書き方で、神の真実が展開されているのです。これだけでも非常に驚異的です。と言うより奇跡的です！

更に、考古学的発掘は、聖書の記録の歴史的確かさを裏付ける新しい証拠を次々に掘り出しています。かつては作り話だと嘲笑されてきた出来事が、今や実際に起こったことだったと、現代の考古学の鋤（すき）によって解明されつつあるのです³。

³ 例えば、1868 年、クライン（Klein）というドイツ人旅行者が、今日では「ヨルダン」と呼ばれる古代モアブの地を訪問しました。クラインは、モアブの王メシャによって 34 行の文章が刻まれた石碑を発見しました。この碑文は、メシャがイスラエルに対し起こした反乱を記念した記録でした。オムリとアハブについては、聖書の第一列王記 16 章

聖書は、まさに、全ての人々に対する神のメッセージを含んだ神の本です。

聖書は神の書物です。それなのに、聖書を読む気さえない人たちがいます。なぜなら、世間に浸透している錯覚を真に受けているからです。その錯覚とは、「世界は二つのグループに分かれていて、事実直面する科学者と、事実を目をつむる真の信者たちだ」というものです。これは、本物の科学者は真のクリスチャンになれないという意味を含んでいます。しかし、今日では、この仮説を否定する偉大な科学者が大勢います。聖書は科学の教科書ではありませんが、聖書の科学に関する記述は、既に確立されている科学的事実によって、一度も信用を失ったことはありません。それどころか、聖書は、その目的とデザインにおいて、科学の限界をはるかに超越しているのです。

例えば、科学は、人が地球に存在する理由も、地上の生活を終えた後どこに行くのかについても、説明できません。人生の意味も、人間の本来の価値をも、教えてくれません。いかに賢くても（あるいは単純であっても）、各人が神の真理を知るに至るためには、神の助けが必要です。だからこそ、フランスの哲学者であり数学者であったブレイズ・パスカルは、「理論の至高の偉業とは、理論には限界があることを我々に示すことだ」と述べたのでしょう。神の書物である聖書がなかったら、人間は、人生に関する最も重要な質問に対し、信頼できる答えを決して得られなかったでしょう。

ではここで、聖書が実際に神の本である事実を最も強く示す二つの事柄について、考えてみましょう。

に記述がありますが、この石碑にも彼らのことが記されていました。聖書にも石碑にも、この二人がモアブを重臣としたイスラエルの王であったことが語られています。このように近代の発見の多くが、聖書の記録の歴史的な確かさを裏付ける証拠となっています。

一番目は、聖書預言の驚異的な正確さです。二番目は、聖書に書かれたメッセージを真剣に受け止めた人々の人生に及ぼされた、力強く肯定的な影響力です。

聖書預言の確かさ

大抵の人には、将来がどうなるかを知りたいという、本来備わった興味があります。そして聖書は、非常に重要な将来の出来事を預言しており、その多くが緻密で、魅了するような詳細にわたるものです。なぜそう断言できるのか、という質問が出て当然ですね。

その疑問にお答えするために、次のことを想像してみてください。あなたは今まで行ったことがない外国で、徒歩旅行をしたとします。あなたが手に持った地図だけが頼りです。地図が正確であることは確認済みです。なぜなら昨晚、地図の通りに川や村を見つけ、村で一泊したためです。今日進んで行くべき、新しい道を決めなければなりません。あなたの前には、馴染みのない土地が広がっていますが、左折して、いくつかの森を抜けて行くと、大きな湖のある場所にたどり着くことが地図に示されています。もしあなたが湖を見たいなら、どうしますか？地図の指示に従って左に進むでしょう。その主な理由は、「昨夜、地図が、見知らぬ場所での確かな導き手であることが証明された」という事実信頼を置いているからです。あなたがそこに行く着く前に、地図がこれから発見するものを示しており、それが間違っていないのです！

聖書こそ神の言葉だと言える最も注目に値する根拠の一つに、聖書預言の独特の正確さがあります。「今日」の視点から聖書を読む私達は、多くの預言が既に成就（じょうじゅ）したことを確認できます。数百年も前に預言されたにもかかわらず、正確にその

言葉通りに実現したことを確認できるのです。

聖書の預言は驚くほど広範囲に及び、全人類に関することから、イスラエルや中近東に関する特定の詳細までを含みます。しかし更に重要なのは、救い主（メシア）の到来を告知した、何百とある預言です。救い主に関する預言の多くは、既に歴史となりました。そのため、救い主の誕生、人生、死が、並外れた細かさで預言され、いかに正確であるかを確認できるのです。

そのような実績に基づき、聖書が預言している通りに、未来が展開されると推測することは、理にかなっており、正しいことです。そして毎年、聖書預言の確かさを証明する更なる証拠が、私達の目前で明らかにされています。実際に、聖書を読むことは、明日の新聞を読むようなものです。

ウィルバー・スミス博士は、その生涯を聖書の研究に費やした人物です。博士は特に、聖書預言の詳細に狂いが無いことを指摘することに、この上ない喜びを感じていました。彼は、旧約聖書中のメシア（救い主）に関する預言と、自ら真理だと主張する多くの他の教えとを比較し、指摘しています。「モハメッド主義は、モハメッドが生まれる何百年も前に、彼の到来を述べた預言者を指し示すことはできません。同じく、どのカルトの教祖達であっても、彼らの誕生が預言された古代の原本を正しく確認することはできません。」

さて、一般に「予言」と呼ばれるものの中には、正確であるためにインスピレーション（神の靈感）をあまり必要としないものがあることを知っておく必要があります。

例えば、報道メディアは、開票前から選挙の当選者を予測することがあります。コンピューターの助けを借りて、投票日当日の聞き取り調査、過去のデータなどを参考にできるからです。入手可

能なあらゆる統計を考慮すると、当選者を事前に言い当てたとしても、驚くに値しません。それでも、時には失敗するのです！

ですが、ニュースの報道陣に今から 50 年後の候補者を予測してもらおうとなるとどうでしょう。レポーターに、当選者は誰で、その人の出生地についての詳細、彼らの将来の生活様式、彼らの死を取り囲む状況などを尋ねるのです。そこで止めず、「今から 1,000 年後、中近東で何が起こるか、信頼できる情報をください」と頼んでみましょう。そして、その長い期間に消滅してしまう街はどれか、具体的に名前もあげてもらおうように聞いてみてください。

確かに、そのニュースの報道者に要求される予測が追加される度に、彼の預言は途方もなく増やされ、それと同時に正確であることから、驚くほど離れてしまうでしょう。それはもちろん、永遠の神がそのレポーターに将来を語らなければそうなるでしょう。そしてそうであった場合においてのみ、レポーターが初めから終わりまで知っていることを私達は期待できるのです。しかし聖書には、レポーターへの質問例のような出来事、それ以上緻密な詳細をもって、しかもより長い年月にわたる事柄が預言されてきました。

例えば、古代ツロの街の歴史は、神が予告したことの見事な成就と言えます。もし気が向いたなら、旧約聖書のエゼキエル書 26 章 3～21 節に記録されている預言を読み、ブリタニカ百科事典を開いたり、他の歴史的記録を調べていただきたいと思います。その両方で、あなたは同じ出来事を読むことになるでしょう。前者（聖書）は預言として、後者（百科事典）は歴史としてです。

預言：事が起こるはるか昔に、神は、ツロが迎える激動の未来について語られました。

「ツロ⁴よ。わたしはお前に立ち向かう。…多くの国々をおまえに向けて攻め上らせる。彼らはツロの城壁を破壊し、そのやぐらをくつがえす。」（エゼキエル書 26 章 3、4 節）また、聖書は、この街が誇って建てたその場所そのものがこすり落とされて、「裸岩」（4 節）になること、更に、「彼らは…石や、木や、ちりまでも、水の中に投げ込まれる」（12 節）ということさえも預言しています。これらの預言の驚くべき詳細はそこで終わっていません。神は古代ツロに「おまえは網を引く場所となり」（14 節）と語られました。

歴史：歴史的文献を読めば、ネブカデネザル王がツロの旧市街（本土）を破壊した時、預言通り、実際にツロの城壁も塔も破壊したことが分かります。また後に、アレクサンドロス大王の専属技師が、ツロの街を削り取り、一掃し、「裸岩」のように残しました。

技師たちが、島への渡し道を建設するためにツロの街の瓦礫を海に投げ入れた時、預言された言葉通りになりました。石や木やちりまでも水の中に実際に投げ込まれたのです。そう、古代ツロの遺跡は、今日も海底に沈んでいます。神は、これらのことが起こると語られ、そしてその通りになりました。

今日、中近東にツロと呼ばれる有名な街がありますが、これは 1291 年に最終的に滅ぼされた古代ツロの街とは異なります。

もし、古代ツロの遺跡を訪ねることができるなら、これらの預言が成就した更に驚くべき事実を、自分の目で確かめることができるでしょう。小さな村に漁師の小屋がいくつか立ち並び、漁船が

⁴ 訳者注。新共同訳では、「ツロ」ではなく、「ティルス」と訳されています。

海に押し流され、裸岩の上に魚網が干してある光景を目の当たりにすることでしょう！ 繁栄していた商業都市、古代ツロについて、このような思いもよらない予告をすることが、人知にできたことでしょうか。

ピーター・ストーナー氏は、ツロに関する七つの預言を、史実と比較対照しました。エゼキエル書の預言が実現する確立を計算した彼は、次のように述べています。

「もしエゼキエルが、彼の時代にツロの街を見たことがあり、これらの七つの預言が人間の知恵によってなされたとすると、それらが全て実現する確率は、7,500 万分の1である。しかしツロに関する預言は、その全てが、その最も微細な詳細にいたるまで実現した。」

今度は、一人の赤ん坊の誕生に関する預言の一例を見てみましょう。元政府の役人で取税人であったマタイは、イエスの誕生の時に成就した多くの驚くべき預言のうち四つを思い出し、記録しています。マタイはその中で、預言者ミカの言葉を引用しました。ミカは、当時のいかさま統治者たちに警告を与え、激しく糾弾しました。ミカが生きていた時代には、本物の指導者が欠落しており、彼はそれに心を痛めていました。しかし、「いつの日か、まことの統治者が現れる」と神が示された時、ミカは明るい未来を見たのです。ミカは、この来るべき指導者のはっきりとした出生地さえ正確に記録しました。

「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの**支配者**になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」（ミカ書 5 章 2 節）

神はこのように、イスラエルに必要とされた統治者が、エフラテのベツレヘムで誕生することを示されたのでした。

ミカの預言通り、イエスは家族の故郷であるナザレの町ではなく、エフラテのベツレヘムで生まれました。なぜならその頃、ローマ皇帝の勅令があったからです。それは人口調査の時であり、イエスの両親も皇帝の勅令に従い、ベツレヘムに出かけました。ユダヤ地方に多くある町の中で、小さな町に過ぎないベツレヘムから、統治者が生まれるなど、誰が期待したでしょう。彼がそこに生まれる確立は、信じられないほど低いものです。それでも、ミカが預言した通りになったのです。そしてこれは、イエスの生涯に関する、文字通り何百とある驚くべき預言の一例に過ぎません。神が宣言されたことを、私達は聖書で以下のように読むことができます。

「わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』（イザヤ書 46 章 10 節）

「先に起こった事は、前からわたしが告げていた。それらはわたしの口から出、わたしはそれらを聞かせた。にわかには、わたしは行ない、それは成就した。わたしは、かねてからあなたに告げ、まだ起こらないうちに、聞かせたのだ。」（イザヤ書 48 章 3、5 節）

神によって与えられ、聖書に記録された預言が、100 % 正確であることは、歴史が証明しています。

聖書の力強い影響力

聖書が神の言葉である強力な証拠の二番目は、それが及ぼす影響力です。聖書が教えられ信じられてきた所では、それがいつでも、社会的、文化的、個人的に、聖書のメッセージが人類の威厳を高めてきました。

本書第二版を印刷する直前、一人の新しい友人が我が家を訪れました。私達は共に、原稿を再吟味しました。普段は容易に感情を表に出さない人なのに、第七章を読んでいる途中、彼は涙をこらえきれなくなりました。神の愛について読んでいましたが、二度も中断して、祈りのうちに頭を下げ、神の愛に対し賛美を捧げました。私達は共に、神の忍耐とあわれみに対して、そして私達の無価値な人生の中に示されている、神の愛の一つ一つの証拠についても感謝しました。私達が生き生きとした、活力を与える神の臨在を感じた時、私達の心は喜びに溢れました。

その日は、この友にとって、特別な意味がありました。彼はちょうど一年前のその日、今私達が住む質素な我が家とは全く対象的な、豪華なマンションに、たった一人で座っていました。

しかし、当時彼を取り巻く美しさは、彼に何の喜びも与えませんでした。彼は実際のところ、生きる気力を失うような内なる失望を味わっていました。個人の幸せを求めるあまり、男性のあらゆる野生的本能を満たすことにふけていました。コカイン中毒になり、莫大なお金を使いました。鎮静剤と覚醒剤、ブランデーとウィスキーの全てを彼は常用していました。ヨーロッパはもとより、世界中の大富豪たちとパーティーに明け暮れる日々が、何年も続きました。しかしその夜、彼は一人でした。その孤独の中で、脅迫的で恐ろしい世の中の状況を考えると、彼の記憶は彼を落胆させました。そして自分には、そこから抜け出せる道はないと思

えました。

固く決心した彼は、二砲身の小型銃に弾を込めて、こめかめに銃口を当て、引き金を起こしました。「ちょうどあと8分の1インチで忘却の彼方さ」と彼は考えました。「そうすれば、ぼくの痛みは永遠に終わるんだ。」まさにその瞬間（どのようにそれが起こったのか、彼には分からないそうですが）、テレビの番組が変わりました。そして将来の希望を伝える、聖書のメッセージに聞き入っている自分に気づいたのです。真夜中が近づき、全く一人で、彼は床に崩れひざまずき、生ける神に赦（ゆる）しとあわれみを願いました。

神の力は、私の友人の人生を徹底的に変えてしまったので、私の目前にいる彼には、私が短く描写した当時の面影はほとんどありませんでした。彼が出生する前、彼の両親が彼のために祈ってくれていたそうです。しかし若い頃に聖書を学んだものの、そのメッセージを真剣に捉えることを拒否しました。彼は裕福で特権的な世界の中で、神に反抗し、道徳的放縦に身を任せるようになったのです。

彼が最終的に神を見出した、この記憶すべき夜の17年前、彼は、美しい革表紙のノートを一冊購入しました。その日から、自分の人生に起こる意義深い出来事を残らず記録するつもりでした。しかしそんなことは一切ないまま、記載するには値しない贅沢と浪費的な17年間で過ぎていきました。ノートも当然、空白のままでした。

実際、私の友人は、長い間、生きた神に背を向け続け、異様で満足のできない、いかさまの霊的な旅をしていました。それは、毎日の星占いとロックミュージックとロックコンサートへの執着に始まりました。すぐにオカルトの世界に足を踏み入れるようにな

り、後にヨガへの興味からヒンズー哲学に傾倒するようになり、やがて東洋の神秘主義にのめり込んでいきました。しかし、どれ一つとして、彼の茶色の皮表紙のノートに書き込む値打ちはありませんでした。空しさから来る痛みと共に、ノートのページも白いままでした。神に出会った記憶すべきあの夜まで。

その夜、友人はノートに最初の一筆を入れました。私は彼が書いたものを読む喜びに預かりました。それは、必要の多い欠陥だらけの男が、愛の神に救われたことをつづる、神聖で靈的な記録でした。本当に美しい記録でした。神は大きなあわれみを注ぎ、この男の靈的な盲目状態を打ち砕かれました。そして、永遠に変わることのない真実と、驚くばかりの愛の光によって、彼を絶望と死の淵から救い出してくださったのです。

かつてこの友が靈的に盲目だったように、人間は靈的に混乱しています。だからこそ、神は、聖書と呼ばれる本の中で、御自身を示してくださったのです。もしあなたが、唯一信頼できる靈的ガイドである聖書から離れてしまうなら、あなたは錯覚と誤解の中に自分を封じ込めることになります。しかし神を探し求める中で、教えを受け入れる心を持って聖書に向かうなら、あなたに必要な光と方向性を全て聖書に見出すでしょう。

神のみことばを通してのみ、神が御自身を宣言しておられるように、はっきりと神を理解することができるのです。この本（聖書）の中で、私達は真理そのもの、神のみことば、そして世の光へと導かれるのです。

主よ、あなたのみことばがとどまり、
私達の歩みは導かれます
みことばの真理を信じる者は、
光と喜びを受け取ります

考えてみましょう

1. 将来起こる出来事を、聖書と比較できるほど正確に預言している神聖な書物や文献は、他に存在するでしょうか。
2. 聖書のメッセージを聞いたために、生き方が変わったという人を、個人的に知っていますか。
3. 心を開いて聖書を読んだこともないのに、特別な聖書の教えを軽んじたことがありますか。

天地で起こる問題は通常、ひとかたまりになって立ちはだかるものだ。
しかし、神の圧倒的な問題に比べれば、それさえ無きに等しい。
神の問題とはすなわち、神が存在されること、
神がどのようなお方であられるかということ、
道徳的存在である人間が神についてどうすべきかということである。

A.W.トーマー

The problems of heaven and earth, though they confront us together
and at once, would be nothing compared with the overwhelming
problem of God: that He is; what He is like; and what we as moral
beings must do about him.

A.W.Tozer

第三章

神はどのようなお方なのだろうか？

誰でも一生に一度は、「神とはどんな方だろう」と尋ねたことがあるでしょう。神は聖書を通してその答えを既にくださいましたが、神が御自身について語るべきことを聖書で読むよりも、自分たちの想像や憶測に頼りたがる人たちがいます。

それらの人々は、実に聖書の重要な声明を裏返しています。神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに人を造ろう」（創世記1章26節）と言われたことに対し、彼らは、「自分たちのかたちに似せて神を作ろう」と言っています。つまり彼らは、「不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。」（ローマ人への手紙1章23節）人が考え出した神々には、全く何の威力もなく、中にはグロテスクなものさえあります。

人がどれほど利口であっても、世的な知恵によっては、生きておられる神を決して発見できません。「この世が自分の知恵によって神を知ることができないのは」（第一コリント人への手紙1章21節）とあります。もし神が、人の賢明さで発見できるなら、その神は神であるにはあまりにも小さい存在になってしまいます。その上、頭脳が明晰でなければ神を見つけられないというなら、さほど賢くない人たちは、神を探す旅においては不利になってしまいます。しかし、実際はそうではないのです。

その反対に、霊的な知恵は万人のために用意されたものです。アフリカのある種族の女性であろうと、某大学の教授であろうと、同等に与えられています。なぜなら、霊的知恵は学問的課程によって得られるものではないからです。それは、神を探す旅において、謙遜になって神の助けが必要であると認める全ての人に用意

されています。

「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。」（ヤコブの手紙1章5節）このような知恵は世的なものではなく、天的なものです。「この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして、悟りませんでした。…私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。」（第一コリント人への手紙2章8、12節）

聖書は、単なる宗教論文ではありません。それは元来、神が人に御自身を啓示される様子をつづった記録なのです。「神はどのような方であるか」「神があなたにどう生きるよう願われているか」、こういったことを理解するためには、霊的な知恵が必要です。そして、それを人に与えることができるお方は、神のほかにおられません。

もし、あなたが神に願うなら、神は聖なるみことばを通して御自身を示してください。

私達夫妻は旅行中、思いもよらない所や、思いもよらない人たちの中に、霊的な事柄に対する深い興味と豊かな洞察力があることを発見しました。例えば、ある日私達は、ケニヤの奥地で若いアフリカ人の少年グループに出会いました。少年たちの唯一の興味は、信仰を分かち合い神についてもっと学ぶことだけのように思われました。

赤道直下の太陽が地平線に沈み、長く忙しい一日に終わりを告げました。私は砂埃で覆われたケニヤの小道の傍らにある岩に腰掛け、休もうとしていると、茂みの中からゴソゴソ物音がしてきま

した。満月の薄明かりの中、目を凝らすと、アフリカの少年の大きく黒々した瞳が、月光を受け光っているのが見えました。この10才くらいの少年は、すぐに私の隣に来て、岩の上にしゃがみこみました。私達はすぐに仲良しになりました。他の少年たちも私達の会話を聞きつけ、どこからともなく集まって来ました。私は、彼らの聖書に関する知識に非常に感心させられました。

小さな友達は聞きました。「どうして神様は、モーセに御顔をお見せにならなかったの？」

このような質問に驚きわくわくしながら、私は逆に質問しました。神が「あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない」（出エジプト記 33 章 23 節）と言われる前、モーセが何と祈ったか覚えているかどうか、このヨエル少年に聞いてみたのです。

少年は思い出せませんでした。「じゃあ、思い出させてあげよう」と、私は続けました。「モーセは『どうか、あなたの栄光を私に見せてください』（出エジプト記 33 章 18 節）と祈ったんだよ。言い換えれば、モーセは神様に『あなたが本当にどんなお方であるか見せてください』と頼んだんだ。でもね、神様はこれには問題があることをご存じだった。つまりね、神様の栄光は、モーセの想像や理解する能力をはるかに超えていたんだよ。」神の輝かしい栄光、聖さ、光は、全てを消滅させてしまうほどだったので、神は「人はわたしを見て、なお生きることはできないからである」（出エジプト 33 章 20 節）と、警告してくださいました。

神の栄光を見ることがどれほど圧倒的なものであるか、モーセは全く分かっていませんでした。しかし、神は、人を御自身の近くに引き寄せたいと願われる方なので、預言者たちと同様、モーセが耐え得る限界まで御自分をお示しになりました。それ以上見せ

られたら、モーセは、神の臨在の輝きによって消滅してしまったでしょう。神は完全な栄光をモーセにお隠しになりましたが、モーセのそばを通られた時、神はモーセを「岩の裂け目」（出エジプト記 33 章 22 節）に保護しなくてはなりませんでした。

赤道直下で暮らすこの幼い友人たちは、午後の強い日差しを放つ太陽を、目に覆いをせずに直視できないことを知っています。また、夜の暗闇を照らすライトに、蛾が引き寄せられることもよく知っています。蛾がライトに近づきすぎるとどうなるかと尋ねると、彼らは一斉に答えました。「蛾は死んでしまう！」彼らは、ライトに身をさらしすぎる危険性を明らかに理解していたのです。

私は、彼らの疑問の答えが理解しやすくなるような例え話を、更に考えてみました。少年たちには、むつきひも（赤ちゃんのつりひも／スリング）は身近なものです。幼い弟や妹たちがお母さんの愛の胸元、その優しい心遣いの近くに、しっかりと結びつけられていることを知っています。そこで私は彼らに、神が地球を包んでおられる、神の「むつき」（ヨブ記 38 章 9 節）の話をしました。

（科学者らはこれをオゾン層と呼んでいます。オゾン層は、同素体酸素でできたデリケートな毛布として、太陽の有害な紫外線から人体を保護する役目を果たしています。言うまでもなく、太陽がなければ地球上に生命は存在しません。しかし神は、優しい配慮で、太陽エネルギーの摂取過多と、それによる発ガン作用からも、私達を保護してくださっているのです。）

小さな友達達は皆、ひどいやけどから身を守る神のむつきひもの簡単な説明に、特に興味を示しました。私の話を全て理解してくれたかどうかは分かりません。しかし彼らの小さな心は、神の愛と栄光に、柔軟に反応し、皆で共に祈る貴重な時を持つことができ

ました。彼らは明らかに、神を求めたモーセが受けたのと同じ神の守りを喜び、個人的に知っていました。私達が神とはどのようなお方かを理解する基本として、聖書は、「主は私たちの神。主はただひとりである。」（申命記 6 章 4 節）と述べています。神が唯一であるということは、基本的な真理です。

しかし、神がどのようなお方であるかを私達をもっとよく理解できるよう、神は、御自身のお名前を教えてくださいました。

聖書では、名前はいつも重要視されています。名前の意味は、その持ち主の性質の一面を反映するように意図されているからです。神を言及するために用いられた一つ一つの名前には、非常に特別な意味があり、ユニークで神聖な神の御性質を表しています。

旧約聖書で神を指す名として主に使われているのは、「ヤーウエ」「エロヒム」「アドナイ」の三つです。いずれも特別な意義があります。聖書の中で最初に登場するのは「エロヒム」で、全部で 2,000 回以上は使われています。「ヤーウエ」は最高を意味しますが、「エロヒム」という名前にも、神が私達に見逃してほしくない重要な意味があるのが明らかです。それは一体何でしょう。

英語では、一つの事柄を話す時には単数形を用い、一つ以上の事柄を話す時には複数形を用います。一方、私達が一つ以上の複数の事柄を話す時、原語のヘブル語では更に細かい使い分けをしています。二つを示す両数は二つの事柄を意味し、複数といえば二つより多くを意味します。この両数と複数の違いはとても重要です。エロヒムは、聖書の中で一番先に使われている神の名です。ヘブル語で、エロヒムは、創造主なる神を指していて、それは単数でも両数でもなく、複数（三位格）を意味しています。

「初めに、神（＝エロヒム）が天と地を創造した。」（創世記 1 章 1 節）聖書の一番初めの言葉に、神が人に御自身を現しておられるのを私達は見ることができます。そこには、神が三位格であるが一つであり、お一人であるが三位格をお持ちである神の御性質の概念の暗示があります。まさに、この三位格の一致が、時に「三位一体」と呼ばれてきたものです。

聖書には、神の三位格の一致の最初の暗示の少し後に、神が人間を創造された様子が書かれています。神は言われました。「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。」（創世記 1 章 26 節）英語の聖書はこの節を、“**Let Us make man in Our image, according to Our likeness.**”と訳しています。「us（われわれに）」と「our（われわれの）」は誰が見ても複数形です。しかし驚くべきことに、その直後には、「神は……男と女とに彼らを創造された。**Male and female He created them.**」（創世記 1 章 27 節）とあります。ここで、「He（彼・神）」と単数形になっているので、神がお一人であることが考察できます。これは、それぞれの箇所が、神がお一人であり同時にお一人以上（三人）であるお方だという、聖書の冒頭で既に「エロヒム」として紹介された神を指しているからです。

このような神は、世の知恵で理解できる範囲を超えた存在です。神は私達の理解を助けるために、惜しみなくこのみことばを与えてくださいました。「私たちは…神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。」（第一コリント人への手紙 2 章 12 節）神は、三位一体の奥義をこれらの節に始まり、聖書の至るところに徐々にお示くださっています。「三位格であるがお一人、お一人であるが三位格である」という神の属性をここで知っておくことは、後で 7 章を読む時、驚くべき神の愛を十分に感謝する助けになるでしょう。神は、私達はその愛の偉大さを理解できるように、聖書を通して、

御自身の姿を次第に現してくださっています。聖書は神を、「父なる神」「子なる神」「聖霊なる神」として紹介しています。しかも、神は、御自身が初めから永遠に唯一であることも示されています。人間が、本物の生きた神に到達し、神を発見することは、不可能です。ですから神は自ら率先して、御自身を人に紹介されたのです。

神の栄光と聖さの完全な啓示は、モーセの目からは隠されました。しかし、エロヒム（お一人であり同時にお一人以上（三人）である神）は、御子なる神の中に、人間の許容能力の限界まで御自身を現してくださいました。

新約聖書によると、以下のように書かれています。

「『光が、やみの中から輝き出よ』と言われた神は、私たちの心を照らし、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。」（第二コリント人への手紙 4 章 6 節）

次の言葉について考えてみてください。ヨハネはイエス・キリストの御顔を見つめた時、このように宣言しました。「私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。」（ヨハネの福音書 1 章 14 節）

ヨハネは後に、神との個人的な出会いについて記しています。ヨハネは、イエスのうちにエロヒムに出会ったので、その体験を伝えるためだけに、彼は生きたのです！ヨハネは、その出会いが、まさに「永遠の神」「創造の神」「モーセの神」との出会いそのものであったことを、明確にしています。

この驚くべき創造主である神とヨハネの出会いは、聞いて、見て、触れて感じることでできる個人的な出会いでした。

「初めからあったもの、私たちが聞いたもの（＝耳で聞くことのできる神との出会い）、目で見えたもの（＝目で見ることのできる神との出会い）、じっと見て、また手でさわったもの（＝触って感じることのできる神との出会い）」（第一ヨハネの手紙1章1節）

ヨハネ書簡で私達が読むことができる記録は、個人に無関係な神学ではありません。それは彼自身が生ける神と出会ったことから溢れ出ているものなのです。

あなたは、「それが今の私に一体何の役に立つのか」と、疑問に思われるかもしれませんが。ヨハネはこの質問にすばやく答えています。「私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。」（第一ヨハネの手紙1章4節）また同じように、あなたが読んでいるこの本があなたの手の中にあるのは、一人の友達が、あなたにも生きた神と出会い、喜びに満たされるようになってほしい、と望んだ結果なのです。ヨハネはこう説明しています。

「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。私たちがこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。」（第一ヨハネの手紙1章3、4節）

そうです。暗い夜には、明かりが魅力的なように、神の栄光の光は、人を神の元に引き寄せます。今日、神がどのようなお方であるか知りたいと願うなら、あなたもモーセと共に、神に祈ることができるのです。「あなたの栄光を私にお示してください」と！

考えてみましょう

1. あなたは、神を探し求める上で、聖書を丹念に注意深く読んだことがありますか。
2. 聖書を読む時、神に「あなた御自身をお示してください」と聞いてみませんか？ 次のように祈られるよう、お勧めします。
「神様、もしあなたがこの宇宙を造られた神であり、私を愛してくださっているのでしたら、お願いです。私にあなた御自身をお示してください。そして、イエス・キリストがあなたの御子であり、約束されたメシア（救い主）であることを、私に示してください！」
3. もしあなたが本当に神を礼拝するとするなら、神は次のような方であると気づいていますか。
 - ・神は、人の研究によって発見できる能力よりはるかに偉大である。
 - ・神は、人の頭で完全に理解できる能力よりはるかに偉大である。

私は、人間の性質というものを、そこそこに理解していると思っている。
そして、古代の英雄たちが皆人間であり、
私もやはり一人の人間であると言える。
しかし、彼のような人物は他にいなかった。
すなわち、イエス・キリストは、単なる人以上の存在であった。
ナポレオン

I think I understand somewhat of human nature, and
I tell you all the heroes of antiquity were men, and
I am a man; but not one is like him:
Jesus Christ was more than a man.
Napoleon

第四章

人々を本当に分け隔てるものは何か？

今日の世界は「グローバルビレッジ（世界村）」として描写されてきました。にもかかわらず、隣人同士の敵意は増すばかりで、世界は益々生活するのに危険な場所と化しています。

表面的には、人類を分け隔てる問題は、政治的、経済的、家庭的、産業的問題など、幅広い分野にわたっているように見受けられます。これらの問題が益々気が滅入るほどの分裂を生み出しているのは確かですが、実は、はるかに深刻でありながら、よく認識されていない大きな問題が、私達の世界に存在します。

まず、人々の間を分裂させる数々の明白な原因を短く考察し、その後で、主な原因に焦点を当てます。

明らかな分裂

政治的：政治家たちは、恐れと不信感を抱きつつお互いに接します。意見の相違を解消できない時、武力行使が国家の未来の安全を保障する道であると期待するようになります。

一方、懸念する市民は、平和と核軍縮を求める声を高めます。けれども、皮肉なことに、平和を訴えるはずのデモ活動の中にも、戦争勃発時に見られるのと同じような行為を、参加者の間に認めることが多くあります。

経済的：干ばつ、飢饉、飢餓、地震などの自然災害は、特に第三世界で増え続けるばかりです。これらの災害は、国家間の貧富の大きな格差による痛みを増し加えています。援助の手を差し伸べ

る人たちの慈善と犠牲も空しく、富める者は益々富み、貧しい者は更に貧しくなる、悲しい現実があります。

家庭的：今日、結婚の破綻と家庭崩壊が、伝染病のごとく蔓延していることは、秘密でも何でもありません。アフリカ人の知人レトソールは、目に涙を浮かべ、「私の家が壊れた」と、教えてくれました。私は一瞬、四つの壁からなるアフリカ式の小屋が壊れたのかと思いました。すぐに、この「壊れた」という表現は、彼の妻が家を出たことを、彼なりの繊細な方法で伝えたかったのだと察しました。今日、自己中心的なライフスタイルが愛の人間関係を破壊しているように、あまりにも多くの「家々（家庭）」が壊されています。（ただし、自分たちの結婚を、永遠に固く結びつけておきたいと願う夫婦には、誰にでも神の愛が用意されています。これに関しては、後の章で見えていきます。）

産業的：職場でも、人々の間に、不満と緊張がある様子を絶えず耳にします。1985年初頭、20世紀の労使間闘争で最も辛いものだった、英国の経済闘争が、終幕を迎えました。路上からストライキや暴力行為が姿を消した後も、雇用者と被雇用者の間と生産共同体そのもののうちには、憤慨と苦渋が残りました。1904年にウェールズの炭坑現場でこれと類似した労働闘争が起りましたが、その結末はこれとは大違いでした。元炭坑夫のジョン・パリー氏は、当事者としての体験を語ってくれました。

ジョンに初めて会った時、彼は91才の引退の身でしたが、視力を完全に失っており、「炭坑夫病」という職業病で肺を患っていました。私達夫婦は可能な限り、ノース・ウェールズにある彼の質素な小屋を訪ねたものでした。彼は、1904～1905年、ウェールズで起きたリバイバルで、神への確信と力に動かされた時、神が何をしてくださったかを、心からの笑いと、生き生きとした喜びをもって語ってくれました。当時、炭坑所有者と炭坑夫の両方が

生きた神と出会いました。そのため、皆の間に本物の一致が生まれ、互いへの信頼と尊敬の念が生じたのでした。1905年の出来事と1985年との間には、これほどの違いがあったのです。

ジョンは、当時を振り返り、喜びに顔を輝かせ、意気揚々と語ってくれました。突然アルコールの需要が無くなったので、何十件と軒を連ねていた大衆酒場は、次々と閉店していったそうです。ジョンは、仕事仲間と一緒に、神をたたえる歌を共に口ずさみながら炭坑に入っていった思い出話をも、聞かせてくれました。彼はくすくす笑いながら言いました。「どこでリバイバルが起こったか教えてくれないかと、まだ俺に会いにくる人たちがいる。」すると彼は、自分の胸をたたいて、こう答えるそうです。「この下で、たった今も起こっているのさ！」

本当に人を分けるもの

上に挙げた分裂は、確かに根深いかもかもしれませんが、更に恐るべき方法で、人類を永久に分割してしまう脅威が存在します。それは、現在、多くの国家の平安を覆す根本要因となっています。ご存知のように、神に対する誤った理解こそが、人々を究極的に対立させてしまうのです！

神は、人類に対して御自身を啓示される時、御自身が神であることについての真理を妥協されることなど決してありません。神は、イエス・キリストが誕生される前から、神が本当にどのようなお方であるかを人間が知るようになるために、大いなる光を送ると約束してくださいました。神は言われました。「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。」（イザヤ書9章2節）更に神は、この光を確認する具体的な方法も教えてくださいました。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。」（イザヤ書9章6節）

もし神が、「子どもが生まれる」とだけおっしゃったなら、特筆する理由はどこにもありません。いつの時代にも子供は生まれています！つまり、与えられるべきひとり子という約束と結びつけて示されない限り、子供の誕生の予告を特別視する理由はなかったはずです。しかし、今や神が「起こる」と言われたことが現実になり、かつては「預言」だったことが、今日では「歴史」となったのです。この地上に、ある幼子が生まれ、この神のひとり子は、天から私達に与えられました。神は、暗やみの中で手探りしてきた人々に、贈り物としてのひとり子の誕生を通して、光を送ってくださったのです。今日に至っても、この光は、人々の目を覆う暗闇と疑念とを、追い払っています。この光がなかったら、私達の間からは神が隠されたままだったでしょう。

神の特別なひとり子の誕生を見分けるために、また、彼が他の誰とも違うことを証明するために、御子の誕生には奇跡的な「しるし」が伴うと、あらかじめ約束されました。「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。」（イザヤ書7章14節）

神のひとり子の名前が、「神は共におられる」を意味する「インマヌエル」とは、何と素晴らしいことでしょう。私達は、この名に込められた意味からも、聖書に書かれた通り、イエスの誕生が全く良い知らせ（＝福音）であり、どの宗教の教えとも異なることを感謝し、喜ぶのです。偽物の宗教が示しているのは、人が神に近づくために何をすべきかということです。一方、聖書は、神が御自分の側から人間の元に降りて来てくださった様子をつづった、神による記録なのです。

聖書に記されている通り、神が地球上に最初の拠点を築かれた時、一人の処女に幼子が宿りました。そして、その日、全宇宙の創造

主が、時間と空間の一部となるために、御自身を低くして下って来てくださいました。今やそれは歴史の一部となっています。「彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。『ダビデの子ヨセフ。恐れなくてあなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。』」（マタイの福音書 1 章 20 節）イエスが誕生され、成人された後、更に彼は敵意むき出しの懐疑者たちの面前で、御自分の神性について次のように宣言されました。「わたしと父とは一つです。」（ヨハネの福音書 10 章 30 節）

アポロ 15 号の宇宙飛行士ジム・アーウィンは、こう述べています。「神が地上を歩かれることは、人間が月面を歩くより、はるかに重要である」。確かに、人類が宇宙で達成したことは、神が「永遠」から「時間」へと踏み入れられた奇蹟の瞬間とは、比べようがありません。

ひとり子が生まれ、神の御子が与えられるという預言の後に、このユニークな人物についての詳細にわたる預言的「身上書」が更に続きます。「その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく」（イザヤ書 9 章 6、7 節）このような恐るべき威力と目的を兼ね備えていることは、世界を治める統治者として確かに理想的です。世界は今日でもなお、正しいことを行なうための知識を有するだけでなく、それを実行する力を持った指導者を求めています。かつての指導者の中には、どのようなアクションを取るべきかを知っていた者もいました。しかし歴史を振り返ると、どの指導者も、恒常的な平和を維持する力と知恵とを併せ持つてはいませんでした。

「平和の君（きみ）」は、この世に永続する平和をもたらす知恵と力の両方をお持ちです。いつの日か、イエスは地球を治めるた

めに再び戻って来られるのです。その日が近づく時、世界中のあらゆる兵器工場が閉鎖され、未使用の核兵器からは信管が除かれ、国境警備隊員はこれを最後に一人残らず家に送り帰されることになるでしょう！

人は人類を治めることには、絶望的なまでに不適切であったことが、既に証明されてきました。全人類のための平和と正義は、平和の君御自身が、宇宙帝国の主権を揺り動かす時まで待たなければなりません！そうして、「彼らはその剣を鋤（すき）に、その槍（やり）をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない」（イザヤ書2章4節）ようになるのです。その平和の日が訪れる時、次のようになります。「まことに、水が海をおおうように、地は、主の栄光を知ることによって満たされる。」（ハバクク書2章14節）永遠の神を満足させる歴史の結末は、これ以外に有り得ないのです。

しかし、イエス・キリストの指揮のもとに、そのような宇宙規模の平和が到来するまでは、人々の間に、深くて実質的な分裂がはっきり認められるでしょう。そして、この来るべき衝突は、人としてのイエス・キリストを巡り、展開するのです。

ですから今後、あなたが、イエスは誰なのか、イエスはこの地になぜ来たのか、イエスは地上にいた間にあなたのために何をしてくれたのか、ということをしつかりと知っておくことは、非常に重要なことなのです。

創世記とヨハネの福音書は似たような書き出しで始まっています。創世記では「初めに、神が天と地を創造した」（創世記1章1節）とあり、ヨハネの福音書では「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。…すべてのものは、この方によって造られた」（ヨハネの福音書1章1、3節）とあ

ります。創世記で「エロヒム」と呼ばれる神は、ヨハネの福音書では「ことば」と呼ばれています。「エロヒム」は、「ことば」そのものであり、神は、肉体をまとしてこの地上にやって来られ、御自分の被造物の間を歩まれました。「ことば」が肉体となって私達の間に住まわれたのです。この素晴らしい宣言を、本来の文脈に戻して、読んでみましょう。

「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。…この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のくにに來られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。…ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから來られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」（ヨハネの福音書 1 章 1 ～ 3 節、10 ～ 12 節、14 節）

何世紀も前に生きていたモーセのように、また、全ての時代のあらゆる人々と同じく、イエスの弟子のピリポもまた、神がどのような方なのかを知りたい、と望みました。

ピリポは、イエスに特別なお願いをしました。「主よ。私たちに父を見せてください。」（ヨハネの福音書 14 章 8 節）驚くべきことに、イエスはこうお答えになりました。「わたしを見たものは、父を見たのです。」（ヨハネの福音書 14 章 9 節）こんな驚くべき応答は、本当にイエスが神御自身でなければ、彼が大馬鹿者か、大うそつきに見えるでしょう。でも、誰一人として、そのように真剣にイエスを責める者はいませんでした。もしもイエスが神で

なかったら、彼は史上最大級の大ペテン師だということになってしまいます。ですから、私達がイエスを見る時、神を見ている、という事実を受け入れる以外、選択の余地はないのです。

イエスが誰であるかという宣言の時点で、離れていく者たちが出始めます。イエスが「わたしと父とは一つです」（ヨハネの福音書 10 章 30 節）と断言した時、自分たちが求めていた神をイエスのうちに見出した者たちがいたのは、ある意味で驚きではありません。しかし、神が御自分の身を低くして来てくださったという可能性を受け入れることができなかつた他の者たちは、これに対し敵意を持って反発しました。イエスは、ある人たちを惹き付けましたが、同時に、別の人たちを引き離しました。イエスにつき従った人たちがいた反面、彼を殺害しようとした人たちもいました。

イエスはその生涯の間でさえも、人々を分断しました。イエスはそれを明確に語られました。「わたしの味方でない者はわたしに逆らう者で」す。（マタイ 12 章 30 節）

しかし、最初の反応が永遠の答えでなければならない必要はありません。

かつてはイエスに敵対していたのに、やがて彼に味方し、従うようになった一人の男のことを考えてみましょう。ユダヤ人のラビだったサウロは、彼の人生の初めのころ、イエスに従う者たちを憎むあまり、彼らを迫害しただけでなく、その死さえも望むほどでした。しかし、彼は回心後、残りの生涯をかけて、イエスを自分の主・神として敬って生きました。サウロは結局、イエスへの忠誠のため、大変な困難を喜んで通るようになりました。何が変化をもたらしたのでしょう？

サウロはダマスコへの途上で、「大いなる光」を見ました。あまりにもまぶしかつたため、一時的に盲目になりました。しかしその時、サウロは本能的に、神がそばにいると分かりました。

「ヤーウエ」を意味するギリシャ語を使って、彼は「主よ、あなたはどなたですか」と尋ねました。すると、神は答えました。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」（使徒の働き 9 章 5 節）その日、サウロは「ヤーウエ」と「イエス」が同一であると理解しました。

この啓示は、イエスの敵であったサウロを、使徒パウロへと変えました。この日を境に、彼は主イエス・キリストに、自分の人生を完全に献げました。使徒パウロは、イエスへの信仰のために苦しむことも多くありましたが、それでも、残された人生全てを費やして、神が地球を訪れてくださったという良い知らせ、福音を宣（の）べ伝え続けました。パウロの人生におけるイエス・キリストという現実が、パウロを至上最大の宣教師に変貌させました。パウロによる書簡は、全てのものが主イエス・キリストによって造られ、主イエス・キリストのために造られた、という確信で満ち溢れています。（コロサイ人への手紙 1 章 16 節参照）

既に見てきたように、聖書はナザレのイエスが神のひとり子であると宣言し、モルモン教や、エホバの証人、他の多くの人々が信じているように、イエスがただ神の息子のうちの一人であるとは言っていません。イエスはまた、イスラム教が説くように、神の単なる一預言者ではありません。これらの宗教団体は、誤った教えを付け加えることで、神が御自身について明らかにされた啓示を無視しています。これは混合主義として知られています。「ウェブスター辞典」によると、「混合主義」とは、「異なる信仰を混ぜ合わせようと試みること」と定義されています。

例えば、ヒンズー教徒は、自分たちの多くの“神々”を棚に飾り、その隣にイエスを単に加えることで“イエス”を認識しています。エリヤの神が、まことの生きておられる神であり、バアルと呼ばれる異教の偶像と対抗した時、神が偶像を一つ残らず御自身の前に屈服させたことを私達はよく覚えています。このように人の手で作られ、人の考え出した神々は、主なるイエス・キリストの前にひれ伏す運命にあります。なぜなら、イエスが神であり、そのひとり子であり、父なる神、そして、聖霊なる神と、永遠に一体でおられる方だからです。

イエス・キリストが神であると一度理解したならば、イエスが処女から生まれたことや、彼が成した多くの奇蹟、イエスの死と復活、昇天、そして力と栄光を帯びてもうじき再臨されることなどを信じることは、さほど難しくありません。なぜなら、イエス・キリスト御自身が、宇宙とその法則、そして生命を維持する仕組み全ての創造主なる「神」そのものなのです。それゆえ、イエス・キリストが御自身の愛と贖（あがな）いの目的を達成させるために創造された、この世の全ての法則を超越しているのです。

ナザレのイエスという人物をめぐる、世界は分裂しています。真の意味では、人は「持っているグループ、持っていないグループ」としてお互いを二分しているわけでも、「政治的権力がある者、政治的に弱い立場にある者」として分かれているのでもありません。また異なるイデオロギーを持った国として分かれているのでもありません。神がこの地球を訪れた時から始まった、人類を本当の意味で二分するイエスを巡る問題は、人間を分裂させるいかなることよりも、はるかに根本的な問題です。

この決定的な声明は、事実の誇張ではありません。なぜなら、主なるイエス御自身が次のように語っています。

「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからです。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。あなたがたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょうか。それは、あなたがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」（ヨハネの福音書8章42～44節）

神を父とする「神の家族」が存在するのと同じように、悪魔を父とする未信者の家族が存在しても驚くに値するでしょうか？全ての人が神の子供ではありません。神の家族になるか、サタンの家族でいるかは、あなたにとっても私にとっても、永遠の二者択一です。

神についてのあなたの信仰がどれほど真剣であろうとも、深刻に間違っていることも有り得ます。人は真剣でありさえすれば、何を信じていても問題ではないと言え、嘘になってしまいます。同じように、薬と信じきって毒を飲んでしまったら、信じる気持ちがいかに真剣であろうと、やはり死は免れません！

まさに、人類は二つの家族のどちらかに分類されます。全ての人間が、神の家族か、あるいは、悪魔の家族かのいずれかに属しているのです。自分がどちらに属するのかを知っておくことは、必要不可欠です。神の家族になるための第一歩は、神がどのようなお方であるかを知り、御自分のひとり子イエスをお与えくださったことにより、何をしてくださったのかを理解することです。

「イエス」という名前は、「ヤーウエは救い」という意味です。だからこそ天使は、ヨセフにこう告げたのです。「その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」（マタイの福音書 1 章 21 節）

考えてみましょう

1. 信じる態度が真剣なら、神について何を信じていても本当に問題ではないと言えるでしょうか？
2. 人々を分裂する究極的原因は何でしょうか？政治的、経済的、家庭的、又は産業的な原因に関するのでしょうか？それとも、霊的なことと永遠に関係することでしょうか？
3. あなたは、主、イエスが説明している二つの家族のうち、どちらの家族の一員でいたいですか？

不道徳を深く認識することは、
おそらく他の何よりも、
救いの神を知ることにつながる。

アーノルド博士(ラグビー公立学校長)

“In a deep sense [awareness] of moral evil,
more perhaps than anything else,
abides a saving knowledge of God.”

Dr. Arnold (Headmaster: Rugby Public School)

第五章

本当の問題とは何か？

20 世紀初頭、多くの人々が、この世界の将来を楽観視していました。彼らは平和と繁栄の黄金時代の幕開けだと信じていました。絶望と病気、非常な貧困で、表現しきれないほどの苦難にある国々でさえ、新時代の祝福を全ての国で見ることができるようになるはずだと考えていました。けれども、現実には 1914 年、ヨーロッパ中に高らかに響きわたったものは、戦争の勃発を告げるサイレンでした。

そして今日、21 世紀をむかえ、私達は、科学が驚異的な進歩を遂げてきたのを目撃してきたにもかかわらず、人々はもはや明るい将来について語りません。その代わり、何百万人もの人々が、世界に点在する核兵器の過剰な破壊力を心配しています。国際テロと国内の問題は共に複雑化するばかりで、見識者の多くが、私達が生きているのは、人類史上最も危機的で、最も危険な可能性を持つ時代だと結論づけているほどです。私達は既に、今日の世界の人々を二極化する問題を考えてきました。文明社会を織り成す繊維そのものが、危険にさらされているのです。一体どこで間違ってしまったのでしょうか。

解決の糸口をつかむため、世界の首脳陣は会見し、討議を重ねます。彼らは問題を公にし、互いの理論と解決策を交換するのですが、世界は一つの危機から別の危機へと渡り歩くような状態です。莫大なエネルギーと資金を投資しているにもかかわらず、世界の進む方向を誰も転換できないように見えます。名高い政治家たち、聡明な科学者や学者たち、やり手の実業家や世界を操る銀行家、尊敬される博士や社会学者らは、それぞれの専門分野で貢献しているのですが、解決策は、いまだ見つかっていません。

人間の真の問題について、神が何とされているのかを、これらの識者が引用することは非常にまれです。しかし、解決に至るには、まず基本的な問題が認識されなければなりません。人間の本当の問題に気づかせてくださるのは、実に、神だけです。この時点で、本気で神を求めている人と、単なる宗教的な好奇心だけの人の違いが、しばしばわかるようになります。

神は、言われました。「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。」（創世記 1 章 26 節）人はどういう点で神に似た形に造られているのだろうかとあなたは思われるかもしれませんが。もちろん、私達の肉体的な姿形が、神に似ているのではありません。なぜなら、主なるイエスは、「神は霊です」（ヨハネの福音書 4 章 24 節）とおっしゃっているからです。神は人のように、腕や足や目などを持っておられません。この神は「近づくこともできない光の中に住まわれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることもできない方です。」（第一テモテへの手紙 6 章 16 節）姿が見えない透明人間は、かつて存在したことはありません。ですから、人が住んでいる肉体的な体よりも、人にとってもっと価値のあるものが存在しているはずです！肉体が朽ちた後も生き続ける部分こそ、真の意味で人を造り上げているものなのです。それこそが、神の形に似せて創造された「人」の姿です。

聖書は、神が思考、感情、意志をお持ちであると示しています。そして、人間はこの三つの領域で、神の形にかたどられているのです。しかし、神は神であるため、その知力、感情、意志には、限界がありません。言い換えれば、無限であることが神の御性質なのです。一方、人間には限界があります。天才だったアインシュタインでさえ、その思考力に限界がありました。全てを知り尽くせる人や、無制限に愛せる人など、この世には存在せず、人の意志は、宇宙全体を支配するほどの絶対的なものではありません。人間は自分の運命を支配する主ではないし、自らの宿命を

操る指揮者でもないのです。

しかし人には、神を知り、神と交わるための霊的許容量が備わっています。だからこそ、聖書は、人が霊と魂と体（第一テサロニケ人への手紙5章23節）から成り立っていることを明らかにしています。

人間は霊を通して、創造主なる神と親しい関係を築くことができる可能性が、神によって与えられています。また、人間は肉体を通して、人格（＝または魂。すなわち、考え、選択し、愛することができる能力）が物質的な世界と関わり合うことができます。

霊、魂、体に関して言えば、聖書に記された通りの優先順位に従い、霊のことをまず第一に、魂を第二に、そして肉体のことを最後にする限り、全てが正しく機能するのです！

しかし、何かが誤ってしまいました。その結果、多くの人の優先順位が逆転してしまい、最も重要なのは体で、二番目に大事なものは魂、霊は三番目になっています。不幸にも、今日の世の中で多く人の考え方、決断、愛情は、肉体的なことや、物質的、性的な興味に支配されています。その反面、霊的な能力は活用されず、死んだままの状態で放置されているのです。そうして自分の霊的な生活を神に修復してもらうことも、創造主に支配されることを拒み、神を軽んじ、脇に追いやってしまっており、そういった誤った方向へと先導された人々と創造主の間には、コミュニケーションが全く無い状態にまでなっているのです。

神は遠い存在で、現実のものではないと言う人は、実際には霊的に死んでいます。しかし、神との交わりを楽しむことができる人は、真実に、完全に生きています。

「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし」てくださいました。（エペソ人への手紙2章4、5節）

世界の問題は、全て、人間の意志に起因しています。神は人を、他者の意志がなければ動けない操り人形のようにはお造りになりませんでした。人形使いは、糸をたくみに操作し、人形のあらゆる動きをコントロールします。一方、神は人に、行動を選ぶ自由意志をお与えになりました。この自由意志の賜物と共に、人は自らの選択についての道徳的責任を、同時に問われることになったのです。（今日、聖書の真理を無視している精神科医からは、このことをほとんど聞くことがないでしょう。）

神が人にお与えになった最初の命令にまつわる人類の悲劇は、人が造られた後で起こりました。エデンの園には、様々な種類の木がありましたが、その中に二本、特別な木がありました。一本は「いのちの木」と呼ばれ、もう一本は「善悪を知る木」（創世記2章9節）と呼ばれていました。アダムとエバは、神に善悪を知る木を除いては、どの木からでも取って食べてもよいと語られました。神は、このように従順と不従順という選択肢を与えることによって、自由意志を持つ男女をお造りになられたことを、明確にしています。神の言葉に従いたいかな否かは、人間の側に任されていた。これは彼ら自身の個人的な決断でした。

悲しいことに、アダムとエバは、人類のために神が備えられていた最善から、背を向けてしまいました。神は、アダムとエバが神に背く道を選んだ場合、表現しきれない程の苦しみをもたらすこと、そして彼らだけでなく全人類に痛みが及ぶことも、あらかじめ御存知でした。しかし、神は、被造物に対する愛と、正しい選択をする者たちに後に与えられる栄光のゆえに、選択の自由を全

ての人にお与えになったのです。

嘘つきのサタン（悪魔）は、アダムとエバを説得力ある言葉で巧みに誘惑し、誤った選択をするように影響を及ぼしました。サタンは、禁じられた木の実を食べるなら、神のようになれると彼らを唆（そそのか）すことにより、禁断の木の実を魅惑的にしました。（サタンはいまだに、人は自らの神になれると示唆しています。ですが、神が神以下に決してなれないように、人は人以上には決してなれません。）しかしサタンは、アダムとエバが神の御意志よりも、彼らの意志を優先させるように誘惑しました。その結果、それ以降に生まれた全ての世代が、創造主なる神との、生き生きとした個人的で親密な関係から切り離されてしまうことになりました。なぜなら、全人類がアダムの子孫だからです。「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、—それというのも全人類が罪を犯したからです。」（ローマ人への手紙 5 章 12 節）

世界で今まで知られているあらゆる墓地、病院、軍隊、刑務所は、創造の初期に、人間が誤った選択をした結果なのです。人類に内在し、死に至らせる悪は、罪と呼ばれ、全人類に影響を与える、生まれつきの病気です。罪は人間が神と本当の交わりを持つことを阻むだけでなく、人間同士の間にも壁を生じさせます。

しかし、あなたも私も、生まれつき罪人であるだけでなく、私達は行ないにおいても罪人なのです。

詩篇の作者は、私達の誕生について、私達全てのために次のように歌っています。「ああ、私は咎（とが）ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」（詩篇 51 篇 5 節）しかし、罪を持って生まれてきたからといって、今まで犯した罪の

言い訳にはなりません。聖書は更に、私達が、不従順の子ら（エペソ人への手紙2章2節）であると述べています。自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御（み）怒りを受けるべき子らでした。（3節）

このように、私達は自分自身の不従順のために、神の前に有罪なのです！これに関し、妻や友人、両親はもちろん、誰のせいにもできません。育った境遇や、環境のせいにもできません。私の罪に対する責任が私のものであるように、あなたの罪の責任は、あなたにあります。

人々の間に敵意が見られ、分裂が生じる本当の理由は、人間全員が共通して持っている罪です。罪は、無神論者やクリスチャンをはじめ、アラブ人、ユダヤ人など、あらゆる人たちに共通する要素です。罪は第三世界の人にも、工業国の人にも共通しています。共産主義者から資本主義者にも、警察官から犯罪者にも、フェミニストから性差別主義者まで、あらゆる人が持つものです。売春婦であろうと、牧師であろうと、贅沢の極みに生活していようと、極貧の中にいようと、教育があろうと無学であろうと、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」（ローマ人への手紙3章23節）にいます。そして罪は、人と人との間に起こる、あらゆる緊張の根本要因なのです。

しかし、イエスは罪人の希望です！イエスは言われました。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」（マタイの福音書9章13節）あなたも私も、近くからでも、遠くからでも、神の神聖という標的に命中できず、的を外しました。罪という言葉は、的を外すという意味です。私達は自分でそれを正すためにどうすることもできません。自己啓発を行なったり善行を積んだりすれば、神との関係が修復され、平安を見出せ

と思うのは、空しい希望です。「行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです。」（エペソ人への手紙2章9節）だからこそ、イエスは救いについて語られた時、こう言われました。「わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。」（マタイの福音書9章13節）

神のあわれみを本当に理解することは、個人的な罪の深刻さにとらわれている人々に、圧倒的な安堵感をもたらします。

神は「あわれみ豊かなお方」（エペソ人への手紙2章4節）なので、唯一あなたに望んでおられるのは、あなたが、ただ、無償である神の贈り物としての救いを受け取ることです。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、**神からの賜物**です。」（エペソ人への手紙2章8節）イエスは、自ら究極の犠牲を払うことで、罪人が、聖なる神の臨在に近づけるように、扉を開いてくださいました。

あわれみの神は、主イエス・キリストを通し、無償で受け取ることのできる豊かな人生を、提供してくださっています。しかし、あなたに意志を与えてくださった神は、そのような人生を分かち合うように強制はされません。神の贈り物にあなたがどう反応するかは、緊急を要する問題です。神は、言われます。「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。」（第二コリント人への手紙6章2節）今なのです。将来いつか、自力で人生をまともなものにしようと試した後にではありません。イエスの次の言葉をよく心に留めてください。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」（マタイの福音書9章13節）

あなたの真の問題、すなわち、罪の問題に対し、まず正直になることが、解決への第一歩です。あなたがどこにしようとも、いか

なる状況や状態にあらうとも、イエスの両腕は今日、あなたを受け止めるために、大きく開かれています。イエスがあなたから聞きたいと望んでおられるのは、「神さま。こんな罪人の私をあわれんでください」（ルカの福音書 18 章 13 節）という言葉だけなのです。



C-マックス刑務所からの手紙

次の引用は、南アフリカの最も厳重に監視されている刑務所にいる、ある囚人から受け取った、編集されていない手紙です。

「『神を探す旅』という本は、私が神の言葉を理解する助けとなりました。この本は、人が真実の人生の道を見つける助けとなってくれます。私は、あなたがこの意味をお分かりだと信じています。私の友人がこの本をくれました。私は、神が創造主であり、この宇宙を創造されたことを信じています。そして、私は、神が今この刑務所の中で、私を助けてくださることを信じています。」

トランスワールドラジオの許可を得て掲載

考えてみましょう

1. 今日の社会は何かがひどく間違っていると認識することができますか？
2. 病気になった時、医者が薬を処方する前に、症状を正しく診断することは重要でしょうか？
3. 聖書はどうでしょう。問題をどのように診断しているでしょうか。あなたの問題の解決策を処方しているでしょうか。

ところが、この町にシモンという人がいた。
彼は、以前からこの町で魔術を行ない、
サマリヤの人々を驚かし、
自分は偉大なる者だと話していた。
小さな者から偉大な者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、
「この人こそ大能と呼ばれる神の力だ」と言っていた。

医師ルカ

Now there was a certain man named Simon,
who formerly was practicing magic in the city, and
astonishing the people of Samaria,
claiming to be someone great; and
they all, from the smallest to the greatest,
were giving attention to him, saying,
'This man is what is called the Great Power of God.'

Dr. Luke

第六章

なぜ人はそこまで誤って導かれるのか？

私がまだ少年の頃、敵の空爆機が続けて飛び交う、イギリス諸島の一角に住んでいました。戦時中これらの爆撃機は、イギリス中部や北部の工業地区にある標的に向かう途中でした。友達と私は、敵の爆撃機と我々側の戦闘機の音の違いを聞き分けられるようになりました。サーチライトが空中の敵機を照らし出すたびに、大変興奮したものです。私達は、地上から発射される対空高射砲（AA）や空中戦が、時として戦闘機を墜落させることを知っていました。

また、敵機を打ち落とせば、兵士がパラシュートで落下してくる可能性がいつもありました。生存者が逃げ抜けて、爆弾を積んで戻って来ることなどないように、当局は交差点の標識を全て分解し、撤去していました。ですから事実上、道路標識はありませんでした。

それでも、私達は、郊外のウォッテン・ウッズの非常に目立たない交差点には、いくつかの標識が残っていることも知っていました。そして、その残されていた標識を、逆方向を指すように直すことで、戦争に協力していると本気で信じ込んでいました。地元の官庁と同様に、自分たちの陣地に乗り込んで来る招かれざる客を混乱させたいといっていました。

もちろん、侵入者が正確な地図を持っていれば、標識がないことなど問題にはなりません。標識を180度回転させるという子供らしい発想も、侵入者が自分の地図を無視しようとしないう限り役立ちません。

神は、どのような人が、神を求める旅において、偽の標識によっ

て誤って導かれてしまうのか教えてください。

まず、この素晴らしい宇宙の存在が、創造主なる神を指し示しているという事実を無視する人は誰でも、大変混乱してしまうと言っています！

「彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり…また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され」（ローマ人への手紙 1 章 22、28 節）

人は良くない思いに引き渡されてしまうと、創造主でなく、被造物を礼拝するようになります。一方、明確に思考できる人は、創造主を礼拝するようになります。ですから、もし、神が宇宙を創造されたと信じるのを拒絶するなら、神はあなたを空しい思いに引き渡し、宇宙がどのように存在するようになったかを説明する途方も無い考えを、信じるままにしておかれるでしょう。つまり、良くない思いとは、惑わされた思いのことです！

神はまた、神の言葉を真理として受け入れることを拒否する人に対し、破壊へと導く偽りの道に容易に従うようになると警告しておられます。実際、神の言葉の真理を、肯定的かつ積極的に愛そうとしない人は、自分を大変危険な立場に置いていることとなります。

「また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け入れなかったからです。それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす力を送り込まれます。」（第二テサロニケ人への手紙 2 章 10、11 節）

人は一度、真理を無視したり拒否したりすると、次からは、より

簡単に、偽りを受け入れていくようになります。

私はある時、ロンドンの濃い霧の中、帰り道を見つけようとしていた時のことをよく覚えています。使えるものを総動員しても、どこからどこまでが道路なのか、見当もつかない状況でした。懐中電灯の光さえ、腕を伸ばした途端に見えなくなるほどでした。神は私達に、人々が神の言葉の真理を拒んだので、この現在の地球の秩序の終わりには、精神的に人の思考を曇らす霧のような強力な惑わしが伴うと語っています。イエスの弟子たちが「あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか」と尋ねた時、イエスはこう答えています。

「にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。」
(マタイの福音書 24 章 24 節)

今も、あなたは心の中で「私は欺かれていない」と思っているかもしれませんが。偽のキリストや預言者を簡単に見分けられることを誇りに思っているかもしれません。しかし、しばらく立ち止まって、あなたの結論について考えてみてください。もしあなたが真実を愛さなかったために、あなたの心がサタンに欺かれることを神がお許しになっていたとしたら、あなたは確実に、自分ではそのことに気づいていないのです。偽預言者に欺かれたことに実際に気づくのなら、あなたは全く欺かれていることにはなりません。全ての惑わしは頭の中に存在しており、知的におごり高ぶっている人にとっては、自分の思考が嘘を信じ込んだことを認めるのは、難しいことです。

世が教える欺きに心を奪われたために、聖書を読んだ時に真理を受け入れない人々には、二つのタイプがあります。一つは、知的面でのプライドが高く、一見自立しているように見える人です。

もう一つのタイプは、道徳的に不従順な人たちです。しかし、神のみこころを行なう事を本当に願う人に対しては、主なるイエスが特別な約束をしてくださっています。「だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神からでたものか、わたしが自分から語っているのかが分かります。」（ヨハネの福音書7章17節）

神のみこころを行ないたいと、心から本気で願うなら、神は聖書を通し、何を信じるべきで、何を信じるべきでないか、どう振る舞ったら良いか、振る舞うべきでないかを、教えてくださいます。

しかしながら、真理である神の言葉を教えないで、その代わりに間違ったことを信じさせたり、行なわせようとする、自称、宗教の教師たちの言葉を、注意深く拒絶しなければなりません。

今の時代にも、人を誤った方向へ導くサタンの工作員が、クリスチャンもどきのカルト（異教）のメンバーです。父なる神、子なる神、聖霊なる神の、神の三位一体の真理を否定することを選んだ人は、全て偽預言者です。そのような人の中には、聖書の言葉を引用する人もいますが、それは、本来の文脈から全く切り離して引用し、否聖書的な宗教を推進しています。「イエス・キリストは誰ですか？」と聞くことによって、偽預言者を大抵見分けることができます。この点からも、イエスが誰であるのかを知っておくことは、とても重要です。

イエスが神のひとり子、つまり子なる神であれば、あなたが本当にわかる時、見事な団結力を維持して仲間同士助け合っている秘密結社でさえ、実は、霊的な惑わしに過ぎなかったのだと分かるようになります。そのような集団で、神のことが語られたとしても、彼らは次のように言われたイエス・キリストの教えを無視しています。

「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」（ヨハネの福音書 14 章 6 節）神について誤った方向に導かれてしまった人に対し、聖書には痛烈な言葉が記されています。「あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。」（ヤコブの手紙 2 章 19 節）⁵

今日、聖書の神を否定する主要宗教グループの間で、警戒すべき大きな動きが見られます。ヒンズー教の多くの分派が、新たに多くの人々の興味を引き付けています。かつては聖書的遺産で知られていた国々で、ヒンズー教の基本哲学が超越的瞑想の形や、ヨガや禁欲主義などの東洋神秘主義の形体で紹介されています。ヒンズー教から派生した様々なカルトが、愚かにも、創造の神を拝

⁵ 国際的な秘密結社の中でも世界で最大級の規模を誇るフリーメイソンは、世界に約 1,000 万人の会員を誇っています。彼らがうたう「兄弟愛・安堵・真実」の原則は、一見、多くの者には魅力的で、会員でないものには人畜無害に見えますが、そうではありません。メンバーになるには、候補者は全員、光を求めている途中であり、自分が暗やみの中にいることを、告白させられます。これとは対照的に、イエスに従う者ならば、既に光を見つけたことを信じます。イエスは語られました。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」（ヨハネの福音書 8 章 12 節）メイソンへの入会の儀式は、ドラマチックで、シンボルが多用されます。加入式では「ガウト（Gauto）」という名を教わり、聖書の神概念から引き離されます。加入候補者は、そこで「ガウト」が「神の失われた名」であり、彼が「宇宙の大建設者」であると教えられます。理論的には、仏教徒、ヒンズー教徒、イスラム教徒、ユダヤ人、クリスチャンの別なく、神を信じる者は誰でも、フリーメイソンになれます。「ガウト（＝人間が作り出した神概念）」は、フリーメイソンの候補者の考えを、聖書が「唯一の光である」（ヨハネの福音書 1 章 9 節）と明確に宣言しているイエスから、そらしてしまいます。会員はやがて、マスターメイソンと呼ばれ、昇級します。その時、フリーメイソンが「神の別の名前」だと述べている「ヤーブロン（Jahbulon）」という名前を、さらに告げられることとなります。この名は実際、ユダヤ教の神と中近東の神の名の組み合わせです。つまり、「ヤー（Jah）」は「ヤーウェ（YAHWEH）」から、そして「ブル（BUL：バアル神の一形態）」と「オン（ON：エジプトの太陽神を示す言葉）」からできています。異なる信仰を混在させようという空しい試みを混合主義といいますが、これはその典型的な例です。イエス御自身がこう言われました。「それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう」（マタイの福音書 6 章 23 節）と！

まず、被造物の中にある多くの神々（偶像）を拝んでいます。悲しいことに、多くの惑わされた精神・思考は、自らへりくだって地球に下りて来てくださった神と共にいるよりも、自分を高めて自己礼拝しているグールー（ヒンズー教の導師）に、夢中になってしまうのです。

イスラム教の世界もまた、その信仰を世界に広めることに大変な熱意を表しています。原油ドルの力と政治的影響力が増し、ほんの数年前までは不可能だと考えられていた彼らの境界を拡大しました。イスラム教徒は、「岩のドーム」と呼ばれるエルサレムの神殿の丘にある、彼らにとって最も聖いと言われる寺院で、堂々と、神についての良い知らせの、まさに心臓部を否定しています。岩のドームの周りには、アラビア語で、「神は生まれなかった。また神は（そのひとり子を）生むこともできない」と書かれています。しかし、聖書は宣言しています。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子（みこ）を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネの福音書3章16節）

また、霊的な惑わしは、宗教の分野だけに留まっていません。宇宙の中心は人間であり、社会の最上の目的は人間の発展にあると唱える人道主義（ヒューマニズム）哲学が、世俗社会に受け入れられています。人道主義は、大学、新聞、国際企業セミナー、主要雑誌、ラジオ、テレビに至るまで、広く浸透しています。広告業界によって、「自分を甘やかさ満足させよ！」という自己中心的テーマが大衆化しました。

人道主義の実際の姿は、一部の人が考えているような新しい哲学ではなく、人間崇拝以外の何ものでもありません。パウロの時代

にも、神はこう言われました。「それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。」（ローマ人への手紙 1 章 25 節）主は、人道主義者に対し、謙遜に成らざるを得ない質問を投げかけておられます。「わたしが地の基（もとい）を定めたとき、あなたはどこにいたのか。あなたに悟ることができるなら、告げてみよ」（ヨブ記 38 章 4 節）これは古い話です。昔、サタンがエバの元に来て、あなたは「神のようになれる」（創世記 3 章 5 節）と言うことによって、サタンは不可能なことが可能であるかのように見せました。今日、サタンは、人を惑わす世俗的人道主義の教えを通して、たちの悪い働きを継続しています。

あなたは、政治にも宗教にも何ら興味を持たない、現代的な若者かもしれません。あなたにとって、政治家たちは疑わしく、宗教は自分に関係がないと思っているかもしれません。友達と時間を過ごし、個人的な満足をどこか別のところに探す方が好ましいと考えているかもしれません。「パンクロック」「ニューウェーブ」「ヘビーメタル」などの音楽の歌詞を通して描かれたライフスタイル、または別の何かが、自分の中にある寂しい世界からの逃げ場を与えてくれると思っているのかもしれません。

もちろん、あなたが聴いたり、それに合わせて踊ったりする曲が、どんな内容を伝えているか、あなたは、既に気づいているはずです。それらの詩について、このように説明したくないかもしれませんが、大抵の場合は、悪魔崇拝（サタニズム）か、サディズム（加虐性愛）、セックスのいずれかの混ぜ合わせであることに同意せざるを得ないでしょう。しばしば音楽の中では、人が意味もなく存在するのなら、地獄の恐ろしさの方がずっと魅力的な選択肢であると紹介されています。若者たちを一致させている旗印の下に、時として狂信的な暴力沙汰を引き起こすような雰囲気の中で、自分自身やお互い同士を破壊するようにと、奨励しているの

です。

ここで、ロサンゼルスのある場所についてお話しましょう。それは、「リフリジレーター（冷蔵庫）」と呼ばれる死体保管所です。そこでは、約 600 体の死体が、その多くが若者ですが、身元を確認してくれる人が現れるのを待ちながら、3 ヶ月間保管されます。足の指には、「身元不明」の札がくくりつけられています。この不幸な人々の大半は、結局、「名無しのゴンベエ」として身元確認がされないまま、生活困窮者用の墓地に埋葬されていきます。大多数が、現在ディスコで流され、また何百万世帯もの家庭の CD プレーヤーで聞かれている同じメッセージを実行に移した結果、麻薬現場から運ばれて来たのです。彼らは言わば、間違った道路標識に従ってしまったのです。今、その道の終わりに来た時には、既に事態を変更するには遅すぎました。「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです」（ヨハネの福音書 10 章 10 節）と言われた主イエスのことばに耳を傾け、注意を払ってさえすれば良かったのに…。

そして今、この全ての混乱に加えて、黒魔術への興味が目を見張るように成長しています。信頼できる情報筋によると、暗黒時代として知られていた中世の時代と同じくらい、オカルトへの興味が広がっているとさえ言われるほどです。現代が、「科学的啓蒙の時代」と呼ばれているにもかかわらず、このようなことが起こっているのです。

意外な場所で、サタン崇拝者の数が増えています。ロンドン市街のケンジントンでも、黒ミサが開かれています。魔女の集いが、ヨーロッパをはじめ、美しいバンクーバー島といった離れ島などにも蔓延しています。また、アフリカ発祥の先祖礼拝も、世界各地で心霊術や交霊会などに取り入れられ、模倣されています。「地下室とドラゴン」や「ウィージャーボード」（いわゆる、コック

りさん)などの室内ゲームが、悪や超自然に関する興味を助長させています。このように蔓延する現象は、表面的な霊的好奇心の結果です。神を探し求める旅の中で、間違っただけでなく、導かれてしまった人たちは、神の光から（From）背を向けただけでなく、偽りで、空虚な霊的充足感を得るためにオカルトの暗黒に（To）向いてしまったのです。これらは現実に、今も、私達が文明社会と呼んでいる所で起こっているのです。

終末に関して、神が何と言われたか、私達はよく覚えています。神は、この世の終わりに大きな惑わしを伴う、偽預言者や、見せかけのしるし、不思議な業(わざ)について警告しておられます。実際、神は「欺きの師」が現れる、と言っておられます。そして彼の邪悪な行ないとはこうです。「不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力、しるし、不思議がそれに伴い、また、滅びる人たちに対するあらゆる悪の欺きが行なわれます。」（第二テサロニケ人への手紙2章9、10節）

現代、偽りの教えや悪の儀式への興味が急速に広がっているため、多くの国々や地域社会で、疑念が人を抑圧し、無力感が蔓延し、希望が失われ暗くなっている理由を理解することは難しくありません。サタンが掲げる嘘の標識は、あまりにも数が多いために列挙できませんが、はっきり断言できるのは、そのどれも、人間の唯一の救い主として、主イエス・キリストを指し示してはいないということです。

神のメッセージは、この世のわびしい人生の描写とは正反対で、混乱と死の陰うつなメッセージとは対極に位置します。神のメッセージは、キリストのうちに見出される、希望と確信、生き生きとした命のメッセージです。神を探し求める旅の中で、あなたが聖書を読む時、聖霊はいつも、「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです」（ヨハネの福音書14章6節）と言われた、主な

るイエス・キリストを指し示してください。イエス以外に正しく導いてくれる者は誰もいません。イエスは、「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(ヨハネの福音書 14 章 6 節) と続けておられます。

神は、あなたが間違っ導かれることのないように、人を惑わす標識について警告してくださいました。また、あなたの思考を曇らせてしまうことになる、増大する惑わしについても知らせてくださいました。そして今、神はあなたにこの約束を与えて下さっています。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。…それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。あなたがたがわたしを呼び求めて歩き、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに聞こう。もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。わたしはあなたがたに見つけられる。主の御告げ。」(エレミヤ書 29 章 11 ~ 14 節)

考えてみましょう

- 1 創造主よりも、被造物を礼拝してしまう知性・思考 (Mind) とは、どんな知性・思考でしょうか。
(ローマ人への手紙1章 22 ~ 28 節を読みましょう。)
- 2 神を求める旅の中で、知的な問題を解く鍵とは、何でしょうか。
(ヨハネの福音書7章 17 節を読みましょう。)
それは、知性・思考でしょうか。
それは、あなたの願いや意志でしょうか。
- 3 神は、あなたを神御自身に導く明確な標識をくださいましたか。
(ヨハネの福音書8章 12 節を読みましょう。)

何年も前、イギリスで、ある日曜学校に出席した少年が、
質問しました。
「神様はいたずらっ子を愛してくれますか？」
すると教師は答えました。
「いいえ、決してそんなことはありません！」
そんなことを少年に語るとは、たとえ意図しなかったとしても、
何という神への冒瀆(ぼうとく)でしょう！
神がいたずらっ子を愛さないなら、
神は決して私を愛してくださりはしなかったでしょう。
シェークスピアは言いました。
「愛が、その相手の内に変化を見出した時に
変わってしまうなら、それは愛ではない。」

G・キャンベル・モルガン

Many years ago a lad in a Sunday school class in England
asked his Sunday school teacher:
“Does God love naughty boys?” and the teacher said,
“No, Certainly Not.” Oh, the unintentional blasphemy of telling a
boy that!
If God did not love naughty boys, He would never have loved me!
Shakespeare says:
“Love is not love that alters when it alteration finds”

G. Campbell Morgan

第七章

神は本当に私を愛しているのだろうか？

あなたは、あなたにとってとても大切な人の愛を疑ったことがありますか？あるいは、あなたが愛していることを信じない人に、そのことを証明しようとしたことがありますか？いずれにせよ、本物の愛を伝えるには、言葉よりも行ないによる方がはるかによい時があることがわかるでしょう。

行ないは言葉よりもずっと力強いので、イエスが十字架上で死なれた時、神は行ないを通して、あなたに対する愛を見せてくださいました。あなたがこの重要性を理解する時、あなたは、神が本当にあなたを愛しておられることを理解するのに、他に何の説明もいらなくなるでしょう。

私はキリストに回心して間もなく、あるラッパ吹き少年と兵士の話を読みました。二人ともボーア戦争の時（1899-1902年）に陸軍に所属していました。ラッパ吹きのウィリー・ホルトという少年は、神を知らない7人の兵士たちと同じテントに配属された時、12才でした。7人の兵士たちの中の一人は、ビルと呼ばれていました。ビルとは対照的に、ウィリーは主イエス・キリストを熱心に信じる者でした。ウィリーは毎晩、ベットの脇にひざまづき、無言の祈りを捧げ、聖書を読みました。他の兵士たちは、彼がそうするのを見て、あざ笑い、悪態をつきました。

ある日、連隊長が兵士たちを招集し、整列させました。盗難事件が発生し、犯人はウィリーやビルの配属されたテントの誰かだと突き止められました。犯人を特定できないため、連隊長は、兵隊全員に、最後の通告をしました。「前回の警告の甲斐もなく、昨晩も盗みが起こった。今日、男らしく名乗り出て罰を受けるよう、犯人に最後のチャンスを与える。名乗り出ない場合、全員のむき

出しの背中を 10 回ずつ鞭打つ。だが、一人が罰を受ければ、残りの者はその罰を免れるのだ。」

緊迫した沈黙の後、ウィリーは、気をつけの姿勢で立ち、前に進み出て言いました。「上官殿、あなたは今、一人が前に出て罰を受ければ、残りの者は助かるとおっしゃいました。私がその一人になります」。連隊長は激怒して、大声を震わせました。「お前たちは、無実の少年に、罰を受けさせようというのか！」それでも、動く者はいません。連隊長は言いました。「では、お前たちは皆、無実の少年が有罪の男のために罰を受ける、悲惨な有り様を見るがいい！」

連隊長がその言葉通り、ウィリーに背中を出すよう命じると、非情な鞭打ちが始まりました。痛烈な衝撃のもとに、ウィリーが気を失った時、とうとうその惨状に耐えられなくなったビルは、突然列から飛び出して叫びました。「止めてくれ！私がやったんです。自分の罰を受けます！」ウィリーは優しく目を上げてビルを見つめ、消え入りそうな声でささやきました。「いいんだよ、ビル。今となっては、連隊長は自分の言葉を取り消せないんだ。僕が君の罰を全部受けるよ。」こうしてウィリーは、ビルの身代わりとなって、最後まで罰を受けたのです！

ウィリー少年がむち打ちの影響から回復することはありませんでした。しかし、彼が天国に召される前、心を打ち砕かれたビルは、ウィリーのベッドのわきで泣きじゃくり、尋ねました。「どうしてだ、ウィリー？ どうして俺のために？ 俺にはそんな価値などないのに！」ウィリーの答えは単純明快でした。「ビル、僕はずっと、神様がどんなに君のことを愛しているか、伝えようとしてきた。でも君は、いつもあざ笑っていたんだ。イエス様が、君の罪のために身代わりとなって、十字架にかかって死なれた時、どんなに君を愛しておられたかを、僕が君の罰を代わりに受ければ、

分かってもらえるかもしれないと思ったんだ。」ビルは、ウィリーが天国に行く前に、私達を愛して止まないキリストから、無償で差し出されている豊かな救いを受け入れました。

神は、失われた人間を救出する活動を、キリストにおいて始められ、勝利を収められました。キリストの驚くばかりの犠牲と苦しみを促したものは、愛でした。それは、私達一人一人に対する神の愛です。

完全な人

ゴルゴタの丘に三本の十字架が建てられました。うち二本には、強盗が十字架刑に処せられました。その二人の犯罪人の間に建てられた十字架の上で、主イエスは釘打たれ、死なれたのです。

苦しみも終わりに近づいた頃、強盗の一人が、この三人に死刑の判決をくださった、当時のうわべだけの司法システムについて、自分の意見を表現しました。驚かれるかもしれませんが、この強盗が最も心配していたのは、拷問で身悶えするような痛みや自分の体ではありませんでした。その代わりに、強盗二人と同じ判決を、イエスに対してもくださった、当時のローマ帝国の司法当局が、いかに乱れているかということでした。このような歴然とした不義に、強盗は心を悩ませたのでした。彼は、死ぬ間際になって、三つのことを鋭く観察し、明快に、しかも謙虚に表現しています。

彼の第一の観察は、「私達は自分の行ないの当然の報いを受けている」というものです。強盗は、この短く謙虚な言葉の中で、自分が犯した犯罪に対する責任を告白し、自ら有罪であることを認めています。

強盗は第二に、「そして、我々は義にかなった死に方をしている」

と分析しています。今の時代、窃盗や暴力的な強盗行為が日常茶飯事なので、一世紀の世界で、盗みをいかに深刻に考えられていたか、なかなか理解できないかもしれません。けれども、「義にかなった死」という短い言葉からも、自分に対する死刑の判決が、法律にかなない正義の実現であることを、この死に際の強盗が強く確信していたことを表現しています。

強盗の第三の観察は、「この人（イエス）は、何も間違ったことをしていない」ということです。強盗が自分の有罪を認め、法的システムによる正義を受け入れている様子は、驚くべきことです。しかし、自分の隣の十字架にかけられたイエスに対する彼の関心は、それ以上に驚くべきことです。死に際の強盗が観察した「この人」、つまりイエスには、罪がなかったのです。ですから、不当に死の判決がくだされたのです。

自らの罪を確信した強盗は、十字架の上で、イエスの方に向くより他に、希望がありませんでした。だからこそ、彼は、熱心に懇願したのです。「イエスさま。あなたが御国の位にお着きになるときには、私を思い出してください。」主なるイエスは、自分が犯した罪と自分の足りなさを正直に告白した者に、いつでもそうされるように、素早くそれに答え、約束してくださいました。「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」（ルカの福音書 23 章 39~43 節）

死に行く強盗にはその日、主に向き直った全ての罪人と同じく、永遠の命が保証されました。この強盗は、向くべき正しい人、主イエス・キリストに向き直り、正しい場所、すなわち、イエスが死なれた十字架で、イエスのあわれみを求めたのです。

そうです、この素晴らしい日、死を迎えようとしている一人の強盗の目に、主イエスは本当に潔白（無罪）でした。後に、イエス

の二人の弟子たちは更なる具体的な観察をし、イエスに罪がなかったことを証言しています。この二人の弟子たちは、それぞれ、使徒パウロと共に、イエスに罪がなかったという個人的な証（あかし）を記録に残しています。

ペテロ、主イエスの親友は、衝動的な行動をとる男として知られていました。ですからペテロは、イエスに何の罪もないことを記すのに、自分の性格を反映させ、動詞を用いています。「キリストは、罪を犯したことがなく（**He did no sin**）」（第一ペテロの手紙2章22節）

ヨハネも、主イエスと、非常に特別な親交を持っていました。その結果、ヨハネには、あらしを探そうとする批判的な群衆からイエスが離れている時も、主なるイエスを観察する機会が頻繁にありました。この有利な立場からイエスの実態を観察できたヨハネは、「キリストには、何の罪もありません。（**In Him is no sin**）」（第一ヨハネの手紙3章5節）と、明確に証しました。

パウロは一方、非常に卓越した学者として知られていました。学問と知識の人であった彼が、イエスについて語った時、「神は罪を知らない方（**He knew no sin**）」（第二コリント人への手紙5章21節）と述べたのも、驚くには及びません。このようなキリストの罪なき生涯に関する本物の証言は、最も印象的で感銘します。

けれども、こう考える人もいるでしょう。「いやいや、強盗も、使徒ペテロも、ヨハネもパウロも、客観的な証言者とは言えない。強盗は、ワラにもすがりたい絶望のどん底にいたし、使徒たちは、主イエスに献身していたから、彼らはみな偏った見方をしていたに違いない。」それでは、当時のローマ総督、ポンテオ・ピラトは、どう証言しているでしょう？確かに彼は、イエスの友人ではありませんでした。それでも彼は、イエスを死に追いやるために

偽の供述をでっちあげた反対者たちに、こう答えています。

「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来たけれども、私があなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えているような罪は別に何も見つかりません。」
(ルカの福音書 23 章 14 節)

しかし、天の御座から発しておられる、父なる神の宣言に比べたら、人間の証言など、いかほどの値打ちがあるでしょう。例えば、公の場でスピーチを始める場合、まず、講演者を聴衆に丁寧に紹介するのは、正しく、また適切です。同じく、人の姿をとられたイエスが、御自身のミニストリーを公に始められる時、父なる神は、愛して止まない唯一の息子を紹介する特権を御自身にとっておられました。父なる神は、天から澄んだ声で、こう発表されました。「これはわたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」(マタイの福音書 3 章 17 節)

父なる神は、イエスが人間の姿をとってこの世におられる間、神が人間に意図された生き方を、イエスが生き抜くことを知っておられたのです。イエス以外の人全員、つまり「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができ」(ローマ人への手紙 3 章 23 節) ませんでした。しかし、イエスは違います！彼はあらゆる点で完璧でした。ですから、イエスの公の生涯が始まる時、父なる神がイエスを紹介したのです。そして、神の愛するひとり子が生き様を喜ばれ、それを表現したのは、イエスの「聖なる父」(ヨハネの福音書 17 章 11 節) だったのです。

既に説明したように、主なるイエスは、神以下の存在では決してありません。ですから、神が御自身を低くされ、処女の母の胎を通して生まれ、人間の姿を御自身の身にまとわれたということは、驚くべきことです。しかし、もしイエスが、人として、天の父に

完全に服従されなかったら、非の打ちどころのない喜びを、神にお与えになることができなかつたでしょう。イエスは地上での生涯において、常に、父なる神に従順であり、常に、父なる神に頼り切っておられました。だからこそ、イエスの人間性は、苦しみと自己中心と罪でいっぱいの中において、天の父の聖さ、愛、目的を地上で表現する形となったのです。

そうです、イエスは、御自分が神として造られたこの地球で、人として歩まれました。主イエスは、決して神以下の存在ではなかつたのに、神が本来、人間に意図された生き方を、33年間の御自分の生き様で示されました。イエスの人間性には、神が意図された人のあるべき姿に背くようなことは、一切ありませんでした。その全生涯を通して、天の父にいつでも役立つよう、完全に御自分を整えておられました。ですから、まことの父なる神は、人間の間で完全な人として生きられた、愛するひとり子イエスのお姿を眺められ、彼こそ御自分の心にかなう者だと言って喜ばれたのです。

無実！無罪！完全！死ぬ間際の強盗や、ポンテオ・ピラト総督にとって、イエスは無実でした。ペテロ、ヨハネ、パウロにとって、イエスは無罪でした。天の聖なる父にとって、イエスは完全でした。無実！無罪！完全！それなのにイエスは死にました。イエスは、私達一人一人を愛する大きな愛のゆえに、私達のために、私達の身代わりとなって死なれたのです！

無限の愛

さて、今、あの残酷な出来事のあった最初の「聖金曜日（グッド・フライデー／イエスの受難記念日）」の目撃者の一人になったと想像してみてください。十字架の周りで群衆は呆然としていました。そして、恐ろしい光景を見守る中で、彼らは更にショッキン

グな、血みどろの対照的な場面に直面することになります。

イエスの両側には、犯罪者が十字架にかけられています。二人とも同胞の前に有罪であり、彼らをお造りくださった創造主なる神の前にも、有罪でした。二人は、その土地の法律に準じ、死刑という報いを受けなければなりませんでした。

この二人の間で、イエスは御自分の十字架に架けられました。強盗たちとは強烈な対照をなして、イエスは人々の前に無実、無罪であったばかりでなく、聖なる父の御前にも完全でした。「神はキリストにあって」（第二コリント人への手紙 5 章 19 節）、「傷もなく汚れもない子羊」（第一ペテロの手紙 1 章 19 節）として、十字架に向かいました。罪人のために、身代わりとなられたキリストの死は、神の愛の心によって自発的になされたことでした。

強盗は自業自得の死を免れませんでした。イエス・キリストには、もちろん死ぬ必要はありませんでした。先に、イエスは彼を批判する者に向かって、御自分の死をあらかじめ告げておられました。「わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ…だれも、わたしからいのちを取った者はいません。…わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。」（ヨハネの福音書 10 章 17、18 節）そして、御自分の弟子たちに、御自身の愛がもうじきどれほどにまで達するのかを説明して、こう言われました。「人がその友のためにいのちを捨てるという、これより大きな愛はだれも持っていません。」（ヨハネの福音書 15 章 13 節）

主イエスの死と復活が実現した後、使徒パウロは、更に次のことを強調しています。「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」（第二コリント人への手紙 5 章 21 節）人の罪

のために、キリストが身代わりに死んでくださった、この素晴らしい真理は、何世紀も後になって、次の詩の言葉の中で意義深く表現されています。

あなたは私の義です
私はあなたの罪でした
あなたは私のものだったものを、取ってください、
あなたのものであったものを、私にくださいました
私が自分でなかったものになれるようにと
あなたは、御自分ではなかったものになりました

一粒の麦

主イエスは、差し迫った死を強く意識しつつ、弟子たちに心開かれ、こう語られました。

「今、わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください。』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。」（ヨハネの福音書 12 章 27 節）この、神の栄光を求める心を尽くした献身に対し、父なる神は優しく答えました。「わたしは栄光をすでに現わしたし、またもう一度栄光を現わそう。」（28 節）

さて、あなたは、血みどろのローマの十字架刑の場面から、どのようにして父なる神が栄光をお受けになれるのだろう、と思われているかもしれません。

主イエスが父なる神に祈る前に、既にイエスは弟子たちに収穫を实らせるために、種は芽を出して死ななければならないことを思い出させました。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」（ヨハネの福音書 12 章 24 節）

罪のない人として、イエスは死刑に値しませんでした。しかし、イエスは死を選び取ったのです。あなたと私の罪の身代わりとして、残酷な死を選び取ったのです。この方法で、イエスは贖われた人々の永遠の収穫を刈り取るのです。そして、主イエスは、御自身の計画を語り、本物の信者全てに御自身の約束をお与えになっています。

計画：「わたしは父から出て、世に来ました。もう一度、わたしは世を去って父のみもとに行きます。」（ヨハネの福音書 16 章 28 節）約束：「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとのに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。」（ヨハネの福音書 14 章 3 節）

これは素晴らしいことであり、驚くべきことに見えますが、この救い主の驚嘆すべき愛にもかかわらず、ある人々は、神が提供する赦しを拒否することを選ぶのです。他の人々は、キリストの死について、受け身のままでいようとしたり、中立の立場をとろうとします。けれども、人が救い主を積極的に拒否しようと、消極的に神を無視しようと、結果は同じです。—それは、唯一の永遠の命の源、すなわち、永遠の光と愛から、永遠に離別してしまうことです。この悲惨な状態が、次の詩のことばの中で表現されています。

死にかけているあなたは、死を迎える。
大いなる死を経験し、
永遠の死は終わることがない。

永遠の死は死に切ることがなく、いつまでも続く。

しかし、主イエスは、私達を地獄から救い出して天国に入れるために死んでくださっただけでなく、神が天から出て来て私達のうちに住まわれるためにも死んでくださいました。

永遠の命というのは、天国での私の未来を確約するだけではありません。聖書はまた、本物の信者に、永遠の命が栄光に満ちた、現存する、生きた現実であることをも保証しています。

「そのあかしとは、神がわたしたちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子（みこ）のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。」（第一ヨハネの手紙 5 章 11、12 節）

永遠の命は、一人の人、主イエス・キリストのうちにあります。そして、イエスが人の心に住まわれたその瞬間から、永遠の命は始まるのです。

莫大な代価

キリストの十字架で、神の聖さ、神の公正さ、神の愛、この全てが、究極の犠牲のうちに一つに融合しました。その場所で、神の聖さが守られ、神の公正が履行され、神の愛があなたや私のような罪深い人々を受け入れたのです。しかし、イエスが支払った代価は莫大でした。

オズワルド・チェンバー氏は、日々のデボーションのための本「いと高き方のもとに（My Utmost For His Highest）」の中で、有益な警告を発しています。

「『神は親切で愛の神だから、赦（ゆる）してくださるに決まっている』というような、神の父性に関する、心地良い見解には、気をつけなさい。新約聖書には、そのような感傷が入り込む余地はありません。神の恩恵の中で、神が人を赦し、回復してくださる唯一の基盤は、キリストの十字架を通してだけなのです。その他には道がありません。これを真実だと理解した後でさえ、単純な信仰によって罪の赦しを捉えてしまい、神が私達のためにどれほど大きな犠牲を払ってくださったかを忘れてしまう可能性があります。」

本書では先に、ウィリー・ホルト少年の無私の行為について述べましたが、神の私達に対する愛を表現するために、カルバリーで耐え忍ばれた神の苦難に相当する、人間的な類似例は実際にはありません。私達が聖書と呼んでいる、神の霊が息づかれた言葉を通して、神御自身が御自身の覆いをわきにどけてくださり、私達にそのような犠牲的な愛の全貌を見せてくださいます。しかしそれでも、神の愛の大きさは、人間の理解能力の限界をはるかに超えています。けれども、この驚くばかりの愛の行為の意味を熟考していくことで、神の愛の長さ、広さ、高さ、深さを理解し、その有り難味が少しずつ、分かるようになっていきます。

イエスは十字架上で死なれた時、私達の罪のために、三重の方法で苦しわれました。

まず、十字架上で、イエスの肉体は絞り出されるような非常な苦痛を体験しました。そして、イエスの愛は、十字架上で極限にまで引き延ばされました。更に衝撃だったのは、それまで父なる神と一体であったために味わってきた神の光と栄光と平安から、十字架の上で遮断されてしまったことです。そうです、イエスが十字架の上で忍ばれた苦しみは、実に、私達人間の理解の限界を超えています。

しかし、イエスの肉体的苦痛、感情的苦しみ、そして特に霊的な苦しみに思いを巡らす時、罪深い人間に対する神の愛の深さを、今までにはなかった新しい方法で味わい、感謝できるようになります。

肉体的苦難：絵画の巨匠レンブラントの貴重な作品に傷をつけることと、汚れた紙を破くこととを、同じレベルで扱うことはできません。それ以上に、完全な人、イエス・キリストの死は、他のどんな人間の死とも、同列にできませんし、比較すらできません。

旧約聖書には、イエスが後に耐えることになる、肉体の損傷についての正確な預言があります。その容姿が「そこなわれて、人のようではなく」なることになるとあります。（イザヤ書 52 章 14 節）しかしながら、この文章の訳は、ヘブル語の原本が持つ力強さを十分に伝えていません。ここで神が説明しておられるのは、愛するひとり子が、やがて、もはや人間としての形跡さえ留めないほど、残虐な拷問を受ける、ということです。キリストの肉体が、そのようにぼろぼろにされることは、イエス自らが預言しました。

「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは、人の子を死刑に定め、そして、異邦人に引き渡します。すると彼らはあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺します。」
（マルコの福音書 10 章 33、34 節）

まさに、この通りのことが起こりました！現場にいた人たちが目撃したことを、マルコは次のように説明しています。「葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり…彼らはイエスを嘲弄（ちょうろう）したあげく…それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。」（マルコの福音書 15 章 19、20 節）

救い主の肉体を引き裂いた、当時のローマ帝国の鞭は、皮の紐でできており、鋭く尖った骨や鉛などの重りが付けられていました。それが体に当たり、イエスの背中や胸の肉は、ぼろぼろに引き裂かれました。そのため、詩篇には、メシア（救い主）がこのように言うと預言されています。「彼らはわたしの手足を引き裂きました。私は、私の骨をみな数えることができます。彼らは私をながめ、私を見ています。」（詩篇 22 篇 16、17 節）

そうです、主なるイエスは、あらゆる意味で完全であられたのに、痛々しくむごたらしい死へと向かわれたのです。イエスが耐えられた無情な肉体的破損は、イエスの容姿から文字どおり人間らしさをすっかりむしり取ってしまいました。

神があなたをどんなに愛しておられるか、理解する助けになったでしょうか？

感情的苦難：十字架にかけられた主イエス・キリストの肉体的苦痛は、人の理解を超えています。それは彼の本当の苦しみの一部に過ぎません。彼の肉体的苦痛は、深い悩みの表面に触れただけでした。

十字架で、イエスは、非常に大きな感情的苦悩をも経験されました。ヨハネは、この恐ろしい時間の出来事をこう書き残しました。

「しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んでおられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。」（ヨハネの福音書 19 章 33、34 節）

イエスのわき腹から血と水が出たことについて、複数の医学的権威者が、イエスの心臓が破裂して死んだことを示すものだと信じ

ると述べているのを聞きました。ある心臓の専門家は、この現象は、イエスの心臓が破裂した時、拡張された心嚢（しんのう）の袋の中に、血液が流れ込んだことを示すものであると説明しています。兵士が救い主のわき腹を突いた時、血と水が一緒に出て来たことを、事実として裏付ける説明です。キリストの死を正確に預言している聖書箇所のうち、詩篇 69 篇には、イエスの心を引き裂く精神的苦痛を前もって示す預言が書かれています。「そしりが私の心を打ち砕き、私はひどく病んでいます。」（詩篇 69 篇 20 節）そうです、言葉で表現できない感情的な苦しみが、イエスの愛する心を、文字どおり打ち砕いてしまったのです。

イエスの愛の心に、全人類の苦しみの総決算が押し寄せた時、汚れもなく、罪人から離れ（へブル人への手紙 7 章 26 節）ていたイエスの魂の上に、想像を絶する活字にすらできない地獄の汚れが押し寄せたのです。その時、主イエスの心は打ち砕かれて死なれたのです。

神がどれほどあなたを愛しておられるか、前より分かるようになったでしょうか。

霊的苦難：ほとんどの人は、主イエスの霊的な痛みよりも、肉体的苦痛、感情的苦悩の方がより容易に理解出来るでしょう。しかし、イエスが耐えられた痛みの中で最も大きな痛みは、やはり、父なる神と聖霊との永遠の交わりが壊れてしまった時だったでしょう。

午後十二時から三時までの孤独な暗闇の三時間、イエスは父なる神と聖霊から見放されたのです。その時、神の御子、イエスは大声で叫ばれました。「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」（マタイの福音書 27 章 46 節）

その驚異の日、（表現しきれない光を永遠に持っている）神の不変性、三位一体が引き裂かれてしまいました。あなたの罪と私の罪のために引き裂かれてしまったのです。それは、イエスが十字架にかけられた時、神は罪のないイエスの体が背負った罪と共存できなかったからです。なぜなら、「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされ」たからです。（第二コリント人への手紙 5 章 21 節）

従って、イエスが私達の罪のために死なれた時、この邪悪な世の中が、三時間という厳粛な時間、奇妙な暗やみに覆われたのも、驚くには及びません。

太陽が暗やみの中に隠れ、
その栄光がさえぎられた。
被造物である人間の罪のために
偉大なる造り主、キリストが死なれた時に。

アイザック・ワッツ（1674～1748年）

「神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。」（第一ヨハネの手紙 1 章 5 節）神の聖さの光と、人の罪深さの暗闇は、決して共存できません。明かりをつけると暗闇は消え去るように、明かりが消されると暗闇が優勢になります。道に迷った人類の罪をイエスが負った時に支配したのは暗闇でした。

悲しいことに、この霊的な暗闇は、神の贖いの愛である光に背を向けた人にとって、永遠に続くものとなってしまふのです。この暗闇とは、真夜中の暗さよりも暗く、独房よりも寂しく、時間そのものよりも長いのです。「そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。」（ヨハネの福音書 3 章 19 節）イエス

から背を向けることは、霊的な暗闇と霊的な死に終わることになります。霊的な死とは永遠の死です。一方、イエスに向くことは、霊的な命、永遠の命に至ります。

勝利者の叫び

良い知らせとは、あの孤独な三時間の暗闇が結末に近づいた時、イエスが「私はもう終わってしまった」と悲しみ嘆いたのではなかったということです。確かにそうではありません！愛の贖いのわざが達成されたのです。ですから、イエスは、勝利の叫びを「完了した」（ヨハネの福音書 19 章 30 節）と叫ばれたのでした。

あなたと私の罪の代価が全額、支払われました。完了したのです！

そして、神の贖いの御業が完了され、主イエスは、三位一体の神格における光との交わりを、再び、永遠に取り戻されました。（ヨハネの福音書 17 章 5 節）今や、あなたと私には、罪のために支払う必要がなくなりました。あなたの身代わりになって、イエスが完了させてくださった御業を、サタンが無効にできる方法は全くありません。サタンの武器だった、毒蛇の牙は抜かれてしまったのです。

死の君を征服した死

神が、血と肉を御自分の身にまとわれたのは、あなたや私の罪のために死ぬ、という理由だけではありませんでした。同時に、「その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼす」ためでもありました。（ヘブル人への手紙 2 章 14 節）

ダビデが、気絶したゴリアテにとどめをさすために、ゴリアテ自

身の剣を使ったように、イエスも悪魔の武器、すなわち「死」を使い、悪魔を完全に打ち負かしました。イエスこそ、人間、すなわち男性と女性の、真の解放者（Emancipator）です。イエスこそ、人間を永遠の死と霊的な束縛から解放することができる、唯一の神の解放者（Deliverer）です。霊的束縛とは、サタンが、神のかたちに人間を創造された神に反逆し、全ての人間に意図したものです。

イエスが悪魔を倒して死を征服し、墓からよみがえられたのは、本物の肉や骨を持つ人間の体の中でした。聖書には、イエスの昇天についてこう書いてあります。「イエスは私たちの先駆けとしてそこに入り」ました。（ヘブル人への手紙6章20節）初めて人が、潔白な、罪のない、完全な人が、天国に入ったのです。十字架上での死によって、イエスは、他の者たちが後に続く道を切り開いてくださったのです。

チャールズ・ウェスリー（1707～1788年）は、神が本当に彼を愛していると確信した時、こう記しました。「驚くばかりの愛。どうしたらこのようなことが可能なのだろうか？ 私の神であるあなたが、私のために死んでくださったとは。」

しかし、今、キリストはよみがえった！

「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。」（第一コリント人への手紙15章20、21節）

故サングスター博士は、私がかつて聞いた話し手の中でも、最も才能に恵まれた人の一人でした。彼の主であり救い主であるイエス・キリストのことを立派に語るために、自分の「銀の舌」を用

いることを、至福の喜びとしていました。皮肉にも、亡くなる前に、彼は口の中に癌ができ、話す機能を全く失ってしまいました。博士が天に召される直前、娘さんを手招きし、紙と鉛筆を渡すよう、身振りで見せました。その復活祭（イースター）の日曜の朝、博士はこう書いたのです。「舌を持たないで、『キリストはよみがえられた！』と叫びたい熱い思いを持っている方が、叫びたい思いを持たないで舌を持っているよりはるかに良い！」

使徒パウロは、偽りの告発に対して自己弁護するためにアグリッパ王の前に立たされた時、キリストの苦しみとよみがえりの両方に彼らの注意を引かせました。「すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに**最初**に光を宣べ伝える、ということです。」（使徒の働き 26 章 23 節）

しかしながら、主イエス・キリストの復活の前に、他の人々が肉体的に死からよみがえらされたことが新約聖書に記されています。ナインという町の未亡人のひとり息子（ルカの福音書 7 章 11~15 節）、ラザロやヤイロの娘が挙げられます。イエスは奇跡的にこれらの人々を肉体的によみがえらしましたが、彼らは何年かの後にまた死を迎えました。しかし、主イエスは違います。今日、イエスは肉体において生きておられるだけでなく、霊的にも、永遠に生きておられるのです。イエスこそ、実に死からよみがえられた最初の方なのです！

いのちの創造主を、腐敗と死の墓の中に、ずっと押さえ付けておくことなど、どうしてできたでしょう？主イエス・キリストは創造主なる神であるため、無から、命を生じさせました。また、イエスは救いの神でもあるため、完璧な人間として、死を克服し、墓から命を生じさせ、信仰によってイエスを受け入れる者の為に、天への道を開拓されました。彼らには、こう約束されています。

「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過（ざいか）の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」（エペソ人への手紙 2 章 4 節～6 節）

使徒パウロは、コリントの街にいる信者たちに手紙を書いて、彼らが既に、彼らの罪の結果から救われていることを思い起こさせました。なぜなら、彼らが、「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと」（第一コリント人への手紙 15 章 3、4 節）を受け入れている（＝しっかりと離れずに、信頼し、そこに落ち着いて休んでいる）からです。今日も、本当の信者たちは、「キリストは私の罪のために死んでくださり、再びよみがえってくださり、イエスの内にある新しい命を与えて下さっている」という素晴らしい事実を、安らぎ、憩うことができるのです。

第一日目から第三日目

あなたは今「十字架につけられた時点から、三日目によみがえられるまでの間に、主イエス・キリストには何が起こったのだろうか？」と思っているかもしれませんが、神はそのような質問を予期し、答えを明らかにしてくださっています。

「この『上られた』ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、ということではなくて何でしょう。この下られた方自身が、すべてのものを満たすために、もろもろの天より高く上られた方なのです。」（エペソ人への手紙 4 章 9、10 節）

そうです。聖書は、主イエス・キリストが天国に上られる前、実際に低い所に下られたと語っています。イエスは低い所に下られた後、（信じながら死んでいった）旧約聖書の聖人たちを、その勝利の行進の先頭で率いながら天に上られたのです。今日、本当の信者は、死への入口こそが、栄光への玄関口であることを、喜びを持って確信しています。奇蹟的に、キリスト自らが私達の身代わりとなり、肉体的な死と霊的な死の両方に打ち勝ってくださいました。

「死よ。お前の勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」（第一コリント人への手紙 15 章 55 ～ 57 節）

従属物—神の愛の遺産

主イエス・キリストが、天国への道を先に開拓してくださったこと、そして私達がイエスの勝利の行進に連なることができることを知ることは、素晴らしいことです。

御自分に属する者を愛するイエスは、死なれる前、あることを約束してくださいました。それは、天に上られた後で、地上の信者たちに聖霊を送ってくださるというものでした。

イエスは弟子たちに語られました。

「『わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。』これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊（みたま）のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかった

ので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」

(ヨハネの福音書 7 章 38 ~ 39 節)

「しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。…わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためです。その方は、真理の御霊（みたま）です。…わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。…御霊はわたしの栄光を現わします。」

(ヨハネの福音書 16 章 5 節、14 章 16 ~ 17 節、16 章 7、14 節)

私達は既に、神のひとり子の死を通し、神に栄光が帰された様子を見ました。さて、あなたは、「神が聖霊を私達に与えると、なぜイエスに栄光が帰されることになるのか？」と不思議がっておられるかもしれません。

一人一人のクリスチャンから神の愛が周囲に流れ出る時、その人の人生を通してイエスに栄光が帰されている、という事実によって、その質問の一部が答えられます。「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」(ローマ人への手紙 5 章 5 節) 聖霊によって現実となった、内住される神の愛は、人間的な魅力や愛情の中で最も崇高なものを、はるかに超えています。十字架で完了された主イエスの御業に、あなたが信仰を持って応答する時、主イエス御自身が、聖霊という位格のうちに、あなたを通して他の人たちを愛し始めてくださるのです。何と驚くべきことでしょう！

キリストがあなたの罪のために死んでくださったと信じ、その事

実の故に心の中で感謝を捧げるなら、あなたは神の赦しと救いの愛を、個人的に確信して喜ぶことになります。

そして、あなたの内に住まわれる主イエス・キリストの臨在に、あなたが自分の人生をささげるなら、愛のないこの世に、キリストの愛を運ぶ者となるのです。

その学識で有名なあるドイツの神学者は「神に関する最も深い思想は何ですか？」という質問を受けました。驚いたことに、その人は、子供の讃美歌の歌詞でそれに答えました。「イエスは私を愛している。私はそれを知っている。なぜなら聖書がそう言っているから。」（日本語の讃美歌：『主、我を愛す』）

神は本当に私を愛してくださっています！そして、神は、あなたを本当に愛してくださっているのです！

ああ、救いの計画を引き出した愛
ああ、人間のところまで下ってきた恵み
ああ、神が橋をかけた大いなる溝、
カルバリーで！

あわれみは偉大で、恵みは無償、
赦しが私に増し加えられ、
重荷を抱えた私の魂が自由を見つけたところ。
カルバリーで。



イラクからの手紙

私はイスラム教(シェルティー派)の家庭に暮らしてきました。家族は私に、イスラム教徒として、祈り、断食する方法を教えてくださいました。私は、男性が私の顔を見て罪を犯してしまうことがないように顔を覆い、イスラム教の女性としてふさわしい装いをしていました。

イスラム教の決まり事のため、私には、何もやる事のない時間がたくさんありました。空虚な時間をラジオの番組をたくさん聴いて過ごしたため、結果として、聖書のメッセージをたくさん聞くことになりました。ある日、義理の姉が色の鮮やかな美しいシールを持っているのを見ました。そして、返信先を義理の姉の住所にして、あなたへの最初の手紙を書いたのです。あなたからのお返事に、「神を探す旅(Your Quest for God)」が同封されていました。

私は、神を求めるとはどういうことなのか、理解しようと思いました。(中略)第七章に、「神は本当に私を愛しているのだろうか」という質問がありました。特に「神はあなたへの愛を、十字架でなされたことを通して示しています。十字架の意味を理解した時、神があなたを愛していることについて、それ以上の証拠を、あなたは必要としなくなります」と書かれている段落に目が留まりました。

私はこの章を 100 回以上読みました。すると、十字架以外に道はないのだ、ということが、何の疑いもなく分かり始めました。

トランスワールドラジオの許可を得て掲載

考えてみましょう

- 1 誰かを愛していると証明する最も良い方法は何ですか。
言葉で伝えることですか。
行動で示すことでしょうか。
- 2 神は、あなたへの愛を、どのように証明してくれましたか。
- 3 神の愛に対し、あなたは、どのように応答しますか。

手術室の電気技術的な雰囲気の中で、
全ての外科医は、血を命とみなすことを学ぶ。
血と命は切り離せない。
片方を失えば、両方を失う。

ポール・ブランド博士

In the electronic atmosphere of the operation room,
every surgeon learns to identify blood with life.
The two are inseparable: you lose one, you lose both.

Dr. Paul Brand

第八章

どこで命を見つけることができるのか？

夜も深まり、刻々と深夜に近づいていました。退屈な 18 時間の鉄道旅行のまっただ中で、妻と私は、何百人もの乗客に混ざって、パリのガレ・セント・ラザレ駅にいました。そこにいた人たちは皆、鉄道員が改札を開けて、自分たちの列車へ進ませてもらうのを、忍耐強く待っていました。

私達の周りのほとんどが若者でした。ドロシーと私が彼らの中でもまれていた時、その雑踏の中に、ヨーロッパの各国が代表されているように見えました。ある青年や女の子たちは、心地よい枕の代わりにしてはお粗末なリュックサックを使って、仮眠しようとしていました。石畳の上に大の字に寝そべっている者がいるかと思えば、そばに立って見張り番をしながら、サンドイッチをぱくつき、ボトルの水をちびちび飲んでいる者もいました。

私達は待っている間、何人かの若者とおしゃべりを楽しんだり、笑ったりしました。若者らしい興奮があるにもかかわらず、彼らがうつむく時、自分で探そうとしている「人生」が、実は実体のないものであって、未だ見出せていないことに気づいているようでした。間もなく話題は、私達と共に旅をしておられるお方、主イエス・キリストのことに向けられました。

話を進める中、落ち着きがなく冒険好きな若者が、心を開き、「本物の」人生を見出したいと打ち明けてくれました。次の街でそれを発見したいと願っている者もいました。またある若者は、次の友人関係の中にそれを見つけるかもしれないと思っていました。別の若者は、次の麻薬注射やアルコールパーティーで人生経験を更に拡大できると、恥じることもなく信じていました。また、死に至る病気にかかることを、非常に恐れている若者もいました。

アフリカの村で「やせ男の病気」と呼ばれて、恐れられていたこの疫病は、医療用語では、「HIV（エイズ）陽性」として診断されました。老若男女に関係なく、これが体内で完全に発達する時、エイズとして知られている病気になります。また、この病気にかかっているという、恐ろしい告知を受ける時の衝撃は、いつも同じです。一瞬で絶望のどん底に突き落とされてしまいます！恐ろしい悩みの種、エイズが、「血液の病」であることは、世界中で知られています。本来、血液の流れは人体を清める命の川の流れのはずですが、エイズによって汚されると死を運ぶ川へと変わり果ててしまいます。

血液が命を与える重要な流れであっても、血を見ると、いつも私はぞっとしてしまうことを認めなければなりません。事実、その恐怖症を克服する大胆な試みとして、一度、医師である友人から、ロンドンの病院での外科手術の見学に招待され、それに応じたことがありました。患者の皮膚にメスが入った瞬間、またもや気絶しそうになりました。あぶら汗でびっしょりで、顔面蒼白になっている私に気づいた友人の医師は、観察室から出るよう勧めてくれました。それ以上の説得の必要はありませんでした！

血を見ることへの個人の反応には関係なく、深刻なほどの出血があっても、輸血によって、命と健康を取り戻すことができます。今日、現代科学の驚異的な発展のおかげで、健康体の血管から抽出した血液を、命を与える川として、死にそうな患者や重病人の血管に注入できるようになりました。

医学研究が血液の驚異や不思議を解明し始めるはるか昔に、神御自身がこれについて宣告しています。「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。」（レビ記 17 章 11 節）ポール・ブランド医師は、血液が命のエッセンスを含んでいると簡潔に同意しています。「手術室の電気技術的な雰囲気の中で、全ての外科医

は、血を命とみなすことを学ぶ。血と命は切り離せない。片方を失えば両方を失う。」と。

しかし、多くの人々は、HIV 感染のように、接触の程度によって、一部の人にしか感染しない血液の病気もあれば、全世界の人が共通して持っている病もあることに気づいていません。なぜなら神は、「ひとりの人から全ての国の人々を造り出し、地の全面に住まわせ」たからです。（使徒の働き 17 章 26 節）この致命的な感染は、全人類を苦しめました。聖書には、その感染源が、代々続く全ての世代の先祖、アダムにさかのぼるとあります。

「最初の人アダム」（第一コリント人への手紙 15 章 45 節）が罪を犯した時、後に続く全ての世代が、肌の色、住む場所、社会的身分などの違いには一切関係なく、死の宣告を受けるようになりました。聖書はそのことをはっきりと述べています。「アダムにあってすべての人が死んでいる…」（第一コリント人への手紙 15 章 22 節）と。そうです。エイズによって汚染された血液が体に死を運ぶように、罪による汚れもまた、世代から世代へと受け継がれました。そうでなかったら、肉体的な病気や死という谷を通過することなく、人々は天国に直行できたでしょう。ですが、現実には違います。

それでも、イエスが生まれた時、人類に命をもたらす血液の流れが与えられたので、神に感謝しましょう！それは、次のように起こりました。天使ガブリエルはマリアに、彼女が息子を宿すようになり、名前はイエスと呼ばれると告げました。ガブリエルは更に、純潔で未婚の処女マリアに、どのように彼女の胎に命が宿るようになるかを説明しました。

「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。そのゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。」

(ルカの福音書 1 章 35 節)

一人の女の種が、聖霊の種によって受胎した時、一つの奇蹟が起こりました。このドラマチックな出来事を通して、神の命が人類に紹介されました。マリアの胎の中でその赤子が成長するにつれ、血液が胎児の体を巡回しましたが、イエスの尊い血は、混ざることもなく、汚されることもありませんでした。そうです。主イエスの血は、命⁶そのものなのです！

人間の血液は、驚くほど複雑に構成されています。今日でさえ、医学研究に携わる専門家たちは、この驚くべき液体が命を与える秘密を、更に発見し続けているところです。血液の役割は、簡単に言えば、体を清める、命を支える、病気を予防することであると説明できます。この血液の機能は驚きですが、更に素晴らしいことに、神は、これと似てはいますが、これよりもはるかに奇蹟的な目的を持つ、一つの血液の流れを、私達に用意してくださったのです。その血は、本当の命を探し求める人全員に与えられます。罪人にとって、イエスの血は、神が罪を清めるための媒介です。霊的に死んでいる者にとって、イエスの尊い血が輸血されると、命の源泉と共に、唯一の命が輸血されることになります。霊

⁶ M・R・ドハーン医学博士は、著書「血液の化学 (The Chemistry of the blood)」の中で、生理学、産科学、看護学の各分野で認められている文献を引用し、こう結論付けています。「母親は、子宮の奥で胎児（まだ生まれていない成長途上の小児）の体を造り上げるのに必要な栄養素を供給する。しかし、胎児の内部で形成される血液は、全て胚芽内で形成されたものだ。受精から誕生するまでの間、母親から子供に送られる血液は、一滴もない」。一方、ロバート・E・コールマン博士は、ドハーン博士の見解に対し、彼の著書「血液の中に記された (Written in Blood)」の中で、次のように述べています。「人体の血液が、男性精子の導入で胎児の内部で形成されるというドハーンの見解を疑うつもりはないが、その真価を疑う学者もいることに言及するのは、公正だろう。しかしながら、生物学的な傾向にもかかわらず、この見解が問題だとする理由は、何一つ見出せない。イエス・キリストの血潮に関する聖書的意義とその重要性を考慮に入れるなら、イエスが神によって受胎したという事実は、それ自体、遺伝による罪の継承の可能性を除外するからである。」

的に生きている者にとっては、イエスの血は、悪魔の攻撃から守ってくれる神の媒介です。尊いイエスの血に関し、聖書はこう告げています。

「ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」（第一ペテロの手紙1章18、19節）

血潮：清めの力

貪欲な運搬会社が、衛生規定を守らなかったために起きた事件が報道されました。営利を増長するため、行きに危険物を運搬したタンクトラックをそのまま使用し、帰りに液状の食物製品を非公式に運んだのです。そのため多くの人命が、危険にさらされたのです。

神は、細胞に食物を運び入れ、同時に廃棄物を掃除する運搬組織を、人体内に造られました。奇跡的なシステムです。神の創造は完璧なので、これら二つが血液中で混ざり、汚染することはありません。驚くべきことに、体内の細胞は、毛細血管から、髪の毛一本の幅以上のものではありません。もし細胞から毒物が取り除かれないと、病気や死は避けられなくなります。

私達の人生から、汚染された罪の实在を取り除く神の方法を、神が説明しておられる通りです。そのような罪からの清めは、イエスの尊い血を通してのみ行なわれることです。「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」（第一ヨハネの手紙1章7節）更に神は、私達の罪が赦される方法は、「血を注ぎ出すことがなければ、罪

の赦しはない」(ヘブル人への手紙9章22節)ので、他には方法がないと語られました。

血潮：命を与える力

血液のもう一つの機能は、生命を維持するために必要な水分や栄養を体中に運ぶことです。細胞や各組織は人体を造り上げています。血液が細胞に行き届かないなら、これらの構造体はすぐに死んでしまいます。ですから、血の循環が止まると、体も死んでしまいます。明らかに、命は血の中にあるのです。

これを理解する時、イエスが御自身の血について語られた言葉を思い出します。これには弟子たちは、大変驚かされました。

「人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。」(ヨハネの福音書6章53～55節)

本当に何を意味しているのかをはっきりとさせるために、イエスは続けて説明しておられます。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。」(ヨハネの福音書6章56節) 霊的な命の真の源を理解できるとは、何という喜びでしょう！イエスの血潮は、罪人を罪から贖う(=買い戻す)ために流されました。イエスの流された血のおかげで、今や、彼が分け与えてくださった命に、私達はあずかることができるのです。主イエスは、イエスの血を飲むとはどういう意味かを説明しておられます。つまり「その人の内にわたし(イエス)がいる！」ということだ、というのです。何と驚

嘆すべきことでしょう！

内在されるキリストの復活の力を個人的に体験した信者たちは、「復活されたキリストが、私の内に今、生きておられます！」と勝ち誇って証言できます。そのような人々にとって、聖餐式（せいさんしき）で、パンとぶどう酒をいただくことは、感謝と証を示す簡素で象徴的な行為なのです。⁷

このように、イエスの尊い血潮には、命を芽生えさせる力があり、聖霊によって天から生まれる時、すなわち、霊的に新生する時、イエスを信じる者の命に、それが奇蹟的に移されるのです。そうです。命を求める人全てにとっての基本は、命を与えるイエスの血を輸血されることなのです。

血潮：保護する力

人間の血には、もう一つの驚くべき機能があります。命を清め、命を与えるばかりでなく、命を保護する役目です。

インドで腺ペストが発生した時、世界中が恐怖に襲われました。インド発の国際線は全て殺菌消毒され、乗客が隔離されて診察されるケースも出てきました。この死病が、国外に広がらないように、続いてインドを飛び立つ全ての旅客機に、一時的な出国禁止令が発令されました。

腺ペストの脅威はめったになくとも、人体は、常に外部からの侵

⁷ 悲しいことに、特定の“聖体拝領”（Eucharist）で受けるパンとぶどう酒は、文字どおり、物質的にキリストの肉と血になると信じることを、今でも止めようとしないう人々が大勢います。私達の内側に住んでくださるキリストの命の象徴として理解されるようにと、主が意図してくださったものが、文字どおりの物理的な事柄として曲解されてしまっているのは悲しいことです。

入物や命を脅かす細菌の攻撃にさらされています。しかし血液には、それに反撃できる驚くべきメカニズムが備わっています。血液は命を防御する流れの中に、抗毒素などの物質を含み、バクテリアの侵入を防ぎます。そのような侵入が起こった途端に、白血球の数が劇的に増加し、防御モードに切り替わります。

人の血液に驚異的な力があるように、主イエス・キリストの血にも、命を保護する役割があるとわかるのは、何とすばらしいことでしょうか。絶え間なく攻撃を仕掛けてくるサタンから信者を守ってくれるのが、イエス・キリストの血潮なのです。サタンと神の民との間で繰り広げられる終末の戦いを、聖書は預言しています。「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」（ヨハネの黙示録 12 章 11 節）あなたも、イエスの尊い血潮によって、悪魔の卑劣な攻撃を乗り越えることができます。

イエスがサタンに勝利することは、悪魔がアダムとエバを誘惑した直後に預言されました。主なる神は、まさにエバから出る子孫が、悪魔を滅ぼすことになる、と約束してくださいました。「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」（創世記 3 章 15 節）女の子孫は悪魔の頭を踏み砕きます。しかし、へビ（に変装していた悪魔）がメシア（＝救い主）のかかとかむ前ではありません。そうです。女の子孫とは、自ら尊い血を流された、主イエス・キリスト御自身だったのです。

「これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼす（す）」（へブル人への手紙 2 章 14 節）ためだったのです。

パリのガレ・セント・ラザレ駅で出会った、幻想を追い続けている若者たちとは打って変わって、本物の命の源を発見した人たちも大勢います。

ある時、ドロシーと私は、本物の命を見つけた確信のある、何百人ものウガンダ人と出会いました。主イエス・キリストの尊い血潮の中に、心を清め、命を与え、悪魔に抵抗する力があることを発見した人たちです。彼らは、自分たちにとって、古いものは過ぎ去り、全てが新しくされた、と真実に証言しました。

危険が差し迫っているので、訪問は見送った方が良いという、ケニヤ大使館員の忠告に反し、ドロシーと私は、神の御霊に強く導かれ、ウガンダを進んで行きました。神は、私達のウガンダの牧師たちとその夫人たちのためのセミナーの時間を長引かせる計画を立てておられました。後になって分かりましたが、神は帰りの便さえも、あらかじめその御計画の中に入れてくださっていました。（私達のフライトは、軍事クーデターの直前にエンテッベを去った最後の飛行機となりました。）

空港に到着するなり、緊張と恐怖の雰囲気を感じました。私達が出くわした混乱と不快な経験の様子は言葉では説明できません。爆弾で開いた穴の跡がまだ残っている道路上にある空港から運転して出て行くために、この地域の数少ない車のうちの一台が、私達に用意されました。空港を出発して間もなく、乱暴な兵士たちからいきなり銃を突きつけられました。彼らが政府側の兵士なのか、反政府側の者なのか、軍服を着た殺し屋なのか、全く区別が付きませんでした。驚いたことに、トラックを運転していた人物が自分たちの部族の出身者だと聞いた彼らは、私達から金品を奪ったり、けがを負わせたりせずに、通してくれました。

目的地に着くと、セミナーの会場が、恐怖に襲われているコミュニティの真っ只中にある暗くて汚い場所であることが分かりました。しかし、牧師たちとその夫人たちが現れた時には、周囲の環境などすぐに忘れてしまいました。神の栄光と神の御臨在の圧倒的な感覚でもって、美しく飾ってくださったのは、ほかでもない神御自身でした。ウガンダでの会合は、生きた神との出会いの中でも、最高峰の体験として記憶に永遠に刻み込まれました。

牧師たちとその夫人たちは、毎日8時間、座り心地の悪いベンチに腰掛け、聖書から神の真理を分かち合うドロシーと私に耳を傾けてくれました。私が教えると同時に、ドロシーは、彼らが宝物のように大切にしている紙の切れ端に記録しやすいようにと、古い黒板に、話の要点を書き出しました。突然、ドアの外に乱闘の音が聞こえました。酔っぱらった男たちが、ライフルを持ってやって来たのです。一人は入口で取り押さえられましたが、もう一人は皆を押しつけて乱入し、ライフルを振り回して、銃口をドロシーの心臓に突き付けました。

ドロシーは静かに、こう言いました。「この親愛なる男性が、イエスを知るようになるよう、皆で祈りましょう。」

しばらくしてから、私にとってはあたかも永遠のように長く感じられたのですが、通訳者が私の方を向いて、絶対的な驚きをもって言いました。「この酔っ払った兵士が今言ったことが、信じられない。彼は今、『俺も、この女の神を知りたい』と言ったんですよ！」

通訳者が話を進める中、今後、決して忘れないだろうという光景を見ました。この乱入者をひざまずかせたのは、天使の促しだったのか、その場を満たしていた神の聖さと力があまりにも強く感じられ耐えきれないものだったのか、それとも、彼の心の奥深い

ところにある必要性を包み隠さずに表現できるほどの謙遜な態度の現れだったのか、私には分かりません。ただはっきり分かっていることは、ライフルがゆっくりと下に向けられ、兵士がひざまずいた、まさにその瞬間に、破壊するための兵器が床にぱったりと落ちたことです。

この瞬間、「この人をどう指導していくか、会合の後でじっくり考えよう」などと言う余裕などないことを、ドロシーは十分理解していました！彼女は兵士に「私の後について祈りなさい」と言いました。そして、それまで欺かれていた、哀れで貧しい魂を、一歩ずつ十字架の元へ、すなわち罪深い人間を救ってくださる救い主へと導いていったのです。そこで兵士は、イエスの血潮を通し、本物の命の全ての源を発見するに至りました。

どうして、私はこの経験を今、分かち合っているのでしょうか？簡潔に言って、それはこの思い出深い会合で次に起こったことのためなのです。

私達の会合に非常に荒々しく乱入して来たこの兵士を、恐れたり憎んだりするあらゆる理由を持っている男たちが、集会には大勢出席していました。中には、つい最近、命が脅かされた者もいました。牧師の一人は、兵士の一人に殺されそうになり、指が吹き飛ばされてしまった経験をしました。しかし、そこにいた男たちは、それぞれ、主イエスを個人的に知り愛していたので、キリストにおいて新たに兄弟になったばかりの兵士を取り囲み、抱きしめ、彼のために祈ったのでした。

楽器の伴奏こそありませんでしたが、彼らは、素晴らしいアフリカのハーモニーで、突然歌い出しました。今でも、あの時に歌われた歌詞を思い返す度、私の心は神を尊敬し恐れる気持ちでいっぱいになります。

ああ、イエスの血潮、
ああ、イエスの血潮、
ああ、イエスの血潮、
わたしを罪から清める。

あの日、世界中の指導者があの場に居合わせたら、どれほど良かったかと思います。そうすれば、部族や人種間の抗争や国際間の紛争に対する、神による唯一の解決方法を、確かに目撃することができたことでしょう。

「その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。…あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行ないの中にあっただのですが、…（神は）あなたがたをご自分と和解させてくださいました。」（コロサイ人への手紙1章20～22節）

そうです。神と正しい関係を持つことができた者だけが「キリストの血によって、…神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。…和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」（ローマ人への手紙5章9～10節）

考えてみましょう

1. あなたは、唯一本物である命を手に入れたいですか？ この命こそ、主イエスが「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネの福音書 10 章 10 節)と説明している命です。
2. 聖書によると、人間の命は体の中のどこに見出されますか。(レビ記 17 章 11 節を読みましょう)
3. 主イエスの尊い血潮に関し、永遠に変わることのない重要な意義は何ですか。
 - ・イエスの血潮の清めの力を信頼していますか。
 - ・イエスの血潮の命を与える力を信頼していますか。
 - ・イエスの血潮の保護する力を信頼していますか。主イエスは言われました。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」(ヨハネの福音書 11 章 25、26 節)

芸術家の絵画作品の完璧さ、人間の顔の輝き、景色の壮大さ——。
確かに、いずれも、音声では適切に説明できません。
目で見ることが必要です。

The perfection of an artist's painting, the radiance of a human face,
the grandeur of a landscape—
surely none of these can be adequately described by sound.
Sight is needed.

第九章

どうしたら神の家族の一員になれるのか？

1940年初頭、眼科手術の分野における医療科学は、大きな発展を遂げました。事実、人が亡くなった直後に、まだ健康な角膜を取り出し、盲人に移植することが可能になったのです。サングスター博士は私達夫婦に、角膜移植手術の最初の成功例を目撃した様子を語ってくれたことがあります。

博士は夜明け前に、二人の人と一緒に、イングランドの美しいサーレイ・ドーンズに出かけました。一人は生まれつき盲目の女性で、もう一人は彼女に目の手術を施した医師でした。手術後の目を光から守るために、何重にも包帯が巻かれていました。そして、それは少しずつ取り外されていきました。彼女は既に、光に敏感に反応できるようになっており、わくわくしていました。あと少しで夜が明けるといふ時、一度も物を見たことがない女性の目から、包帯の最後の一巻きが取り除かれまた。

太陽が水平線から顔をのぞかせた瞬間、日差しがこんなにも輝いた日はない、と思えるほど素晴らしかったそうです。日が昇るにつれ、影が短くなっていき、緑の葉は、朝の壮観を背に、繊細で美しいシルエットをくっきり浮かび上がらせました。鳥たちは、朝露にぬれた自分たちの縄張りを、朝食を求め、あちこち忙しく跳ね回っていました。あらゆる光景が、生まれて初めて「見る」ことができた女性のために、見事な催しを繰り広げているようでした。彼女の頬に涙が滴り、彼女は叫びました。「ああ、あなたたちは今まで、私にこれを説明しようとしてきたんですね。でも、こんなに素晴らしいものだったなんて、決して想像できませんでした！」彼女は、神の創造の荘厳さの前にたたずみ、沈黙の畏敬の念の中に、座ったままだったそうです。

今まで一度も物を見たことがなかった人に対して、「赤」という色をどう説明しますか？また、一度も光に反応しなかった目を持っている人に、どうやって日没のドラマを伝えますか？もちろん、それは不可能です。目で見るとの美しさが言葉で表現され、聞き手の耳に入ったとしても、その人に視力がないなら、その言葉はほとんど意味を成さないからです。芸術家の描いた絵画の完璧さ、人間の顔の輝き、景色の壮大さ、これらは音声では適切に説明し切れません。目で見ることが必要なのです。

キリストを信じる者が、キリストを信じていない人に、霊的な美しさを口で説明しようとする時にも、これと同じぐらいの難しさが伴います。ある時、私は、ロンドンのガイズ病院で最終試験の学びをしていた医学生と出会い、彼に神の愛の素晴らしさについて話そうとしたことがあります。彼は「僕には見えてこない」と答えました。私には、その意味がわかっていたのですが、もう少し会話を進めることにしました。「そうだね。君が理解できるとは思わないよ。君はいわば、真っ暗な部屋にいる人のようなものだからね。そこにいることがどういうものか私には分かっているよ。私自身も、かつては霊的な暗やみの中に生きていたからね。でも今では、神の愛の太陽がさんさんと輝いている場所に出てきたんだよ、デビッド。神の愛を理解するためには、その暗やみの部屋から、神の日差しの中に出てこなければいけないんだ」。その日、彼はひざまずき、主イエスに罪を赦してくれるよう頼み、イエスを自分の人生に招き入れました。デビッドが立ち上がった時に言った言葉を、私は決して忘れることがないでしょう。「これがこんなに素晴らしいものだったなんて、思いもしなかったよ！」

物理的な景色を目で見る時、神が創造した物の美しさを体験として捉えることができます。これと同じように霊的な視覚は、神の臨在の現実や神の力、神の愛を、人間の魂に伝えてくれるのです。主イエスは天に昇られた後、使徒ヨハネを通して語られ、ラオデ

キアの街の人たちの霊的な状態に関して、驚くべき診断を下しています。イエスは彼らに向かって言われました。「実は、自分が、…盲目で、…あることを知らない。」（ヨハネの黙示録3章17節）自分の悲しい状態を気づいていない盲目の人を想像できますか。霊的な盲目状態を診断した後、続けて主イエスは、その治療を処方されました。「目が見えるようになるために、目に塗る目薬を買いなさい。」（ヨハネの黙示録3章18節）この治療は、どれほど重要でしょう！霊的に盲目である人は、聖霊の働きによる霊的な目の手術が必要です。

あなたがこの世に生まれた時が、肉体の誕生でした。しかし、霊的な視覚と、それらを理解するための理解力は与えられませんでした。霊的な暗やみから抜け出して「神の栄光を知る知識」（第二コリント人への手紙4章6節）の中に入るには、あなたはもう一度生まれなければなりません。イエスがニコデモに語られた通りです。

「肉によって生まれたものは肉です。御霊によって生まれたものは霊です。『あなたがたは新しく生まれなければならない』とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。」（ヨハネの福音書3章6、7節）「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」（ヨハネの福音書3章3節）

ですから、神の国を見るには、もう一度、生まれ変わる必要があります。

他の全ての人間と同様に、あなたも、神の形にかたどられた空洞を人生の中に持って生まれ、それは満たされたいと叫んでいます。この霊的な空洞は、死から復活されたキリストが入って来られ、内住することでしか埋められません。あなたがキリストを救い主として人生に招き入れる時、イエスの死の目的と必要性が、あな

たの人生の中で達成されるのです。イエスが死なれた理由は、あなたの罪を赦してくださることだけではありません。あなたの心を、御自分が住まわれるのにふさわしい、靈的に清い場所とするためにも、死なれたのです。イエスが心に入って来られる前に、罪を赦してもらう必要があるのは、そのためなのです。

一人のアフリカの若い信者と話していた時のことです。自国の若者たちに、キリストの良い知らせを伝えたいという猛烈な重荷を彼が心に抱いていることが良く伝わってきました。私は翌週、200人近くの牧師たちのために、聖書を教えることになっていたのです、この若者を招待することにしました。会場は、彼の住む所から数百マイル離れていましたが、あえて、長くでこぼこした道をバスに乗って来るよう勧めました。ウィリアムという名のその青年は、会場に到着した時点で、すっかり疲れ果てていましたが、神と神の言葉について更に学ぶことを非常に喜んでいました。彼がすし詰め状態のアフリカのバスで、はるばる会場にやって来たのは、ただバスに乗るためではありませんでした！バスでの移動は、会合に到着するための手段でしかありませんでした。その本当の目的は、その旅の終わりに待ち受けていたものでした。

同様に、あなたと主が互いに交わりを持つために、主があなたの人生の中に入ることができる唯一の方法は、あなたの心が罪から清められるための手段を与えることであるのを、主イエスは御存知でした。罪の赦しは必要ですが、キリストの究極の願いは、あなたがキリストの内に新しい人生を始め、また、神と交わることができるようになることなのです。あなたは、それ以下の何かで満足できるでしょうか？結局、キリストと個人的な関係を築くことこそ、あなたが創造された目的そのものなのです。

キリストがあなたの心の内に住んでおられると知ることは、今ここで、既に永遠の命が始まっていると知るということです。内住される

キリストの臨在は、キリストの命をあなたの人生にもたらすのです。

「そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。」（第一ヨハネの手紙 5 章 11、12 節）

ですから、医学生だったデビットが、主イエスに罪の赦しを願い、人生に入ってきてくださるよう頼んだ後、「これほど素晴らしいとは思いませんでしたよ！」と叫んだのも、驚くには及びません。

でも、どうやって？

ペテロが、イエスの生涯と死、復活について宣べ伝えた時、神は人々の心に救い主を知りたいと願う思いを与えられました。聖霊が彼らにされたことと同じことを、今あなたにもされているのです。ペテロが、イエスが主（ギリシャ語でキュリオス＝ヘブル語でヤーウェー）であり、神のメシア（救い主）であると語った時、彼らはそれを聞いていました。そして、イエスが誰かという新しい理解が、彼らの中で、圧倒するような確信と救いの必要性を生み出しました。聖書の記録によると、彼らは十字架にかけられたお方、救い主御自身を拒絶し、何の興味も示さなかったことを思い起こした時、心を刺し貫かれ、熱心に「私たちはどうしたらよいのでしょうか」（使徒の働き 2 章 37 節）と尋ねた、とあります。

これに対し、ペテロはまず、悔い改めを勧めました。悔い改めない信仰は、本物の信仰ではありません。悔い改めがないならば「見せかけ」や「思い込み」、あるいは、単なる「幻想」に過ぎません。人を救う信仰は、イエスに信頼する心と、態度の変化の両方が伴います。

イエスを素直に信頼し、十字架の死を通してあなたのためにしてくださったことを感謝するならば、神と罪に対するあなたの態度は、劇的な変化を経験するはずでありません。聖霊は、その時初めて、あなたの霊的な視力を回復する手術を施すことができ、あなたの知性は、異なった視点から物事を見始めるようになります。実際に悔い改めるといふ言葉の意味は、本来、「考えを変える」ということです。ですから、本物の新生体験には、神と罪に関する基本的な考えの変化が含まれているのです。

神について：悔い改め（＝考え方の変化）は、神に対しての誤った考えを全て拒絶します。私は今まで、アフリカでイエスに立ち返った人たちが、古くからの慣習や異教の風習に引き戻されそうになる力に強く反抗し、自分たちが崇拝してきた物を、公に燃やし尽くしてしまった光景を目にしてきました。またある友達は、聖書の神に反する宗教的、社会的システムを拒絶したため、時には脅迫され危険な目にあうほどの社会的な弾圧に抵抗しなければなりません。救いの信仰は、イエスが「ヤーウエ」、すなわち唯一の救い主なる神であるという、揺るがない堅固な確信に根づいたものでなければなりません。

罪について：信仰によって、イエスによる救いを経験した時、あなたは悲しみと恥をもって、自分の罪深さを認識することでしょう。罪に対する考え方が変化した（＝悔い改めた）ために、もはや、罪を無視しようとしたり、自分の罪に対して言い訳をしたり、また、自分の義が自分を救うだろうといった希望は持たなくなっていくます。聖い神の前には「私たちの義はみな、不潔な着物のようです。」（イザヤ書 64 章 6 節）しかし、イエスに立ち返る時、今までの人生に見られた、神を喜ばせていなかった物事から離れたいと、強く願うようになります。

宿舎を離れている陸軍伍長がいると想像してください。彼はある

日、二通の手紙を受け取りました。一通は友達から、もう一通は司令官からです。最初の手紙は、友人の結婚式の招待状でしたが、もう一つはある任務のための出頭命令でした。招待と命令には大きな違いがあります。招待は丁寧に断れますが、命令には、従うか反逆するかのどちらかによる応答しかありません。

神はあなたを愛しておられ、また罪があなたの命を滅ぼしてしまうことを御存知であるため、罪を悔い改めるよう招待しておられるのではなく、命令しておられます。パウロは、ギリシャの大学都市で、哲学者や傍観者らに福音を宣べ伝えていた時、最後に「今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます」（使徒の働き 17 章 30 節）とくりました。この「すべての人々」の中には、あなたも含まれているのです。

このように、神に関する間違った考えを改め、自分の罪から離れる時、その過程において、信仰によりイエスがあなたを救ってくださる神であると告白し、イエスに向き直る時、聖霊が心に働いて、神の目に正しい「志を立てさせ、事を行なわせ」てくださるようになります。（ピリピ人への手紙 2 章 13 節）神は、心から悔い改める者たちに対し、神のみこころを行ないたいと願う思いと、それを行なうために必要な力の両方をくださると、約束されています。その時に初めて、あなたの人生は変えられ、神があなたのために定められた人生の可能性に到達できるのです。

私は一人の友として、あなたが遅れることなく、主イエス・キリストを受け入れてくださるよう勧めます。祈りの中で、神の御前（みまえ）にあなたが頭をたれることができる、静かな場所を探してください。もちろん、オウムのように、言葉を無意味に繰り返すだけでは、何の役にも立ちません。重要なのは、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」（ヨハ

ネの福音書 14 章 6 節) とおっしゃったイエスに、あなたが信仰によって応答することです。

今、あなたは、目を閉じて、心から沸き上がる気持ちをそのまま言葉にして祈りたいと思われているかもしれません。あるいは次の祈りが、あなたが祈る上で、役に立つかもしれません。

私の祈りによる応答

「ああ、神様。私は今まで、あなたを知らずにいました。また、あなたを愛していませんでした。けれども、あなたが、私のことを知っていてくださり、ずっと愛してきてくださったことを感謝します。

私は罪人で、救われるために、自分からは何もできません。主イエス様、信仰によって、今、あなたに立ち返り、あなたの赦(ゆる)しを求めます。自分が罪人であることを告白し、自分の罪を悔い改めます。主なるイエス様、私のために死んでくださり、あなたの尊い血潮によって、清める力と命を与える力を私に与えてくださったことに感謝します。信仰により、今、私の命をあなたの尊い血潮の保護の下に置きます。

主なるイエス様、どうか私の心に入ってきて、私の人生を支配してください。

主なるイエス様、あなたの聖霊によって、私はもう既に生まれ変わったことを感謝します。あなたの復活の力によって、私は神の子供とされ、あなたと永遠に生きることができるようになったと知ることは、なんと素晴らしいことでしょう！」

「彼に信頼する(寄りすがり、より頼む)者は、決して失望させられることがない。」(第一ペテロの手紙2章6節)

さあ、あなたがたった今、行なったことを誰かに話してください。キリストがあなたの内側に住まれていること、そして、キリストのために語り、キリストのために生きるのに必要な力は、全てキ

リストが与えてくださるということ覚えておいて下さい。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」（ローマ人への手紙 10 章 9～10 節）



スロバキアからの手紙

親愛なる皆さん、私は今まで読んだ本の中で最も心をひき付ける本、「神を探す旅」を読み終わったところです。私は決して、自分が以前と同じようにはならないことを知っています。主イエスが私を受け入れてくださったので、私は私の人生を彼に捧げました。私は、この喜びを友人全員と分かち合いたいので、この本を貸し出すために、あと 2 冊注文させていただきたいと思います。…私の人生に福音をもたらし、キリストにある救いの賜物を与えてもらったことを、あなたに感謝しています。…こんなに素晴らしい本があったなんて知りませんでした。

—J.A.によって翻訳され、提出された報告

考えてみましょう

1. 惜しみなく与えられる贈り物を感謝する気持ちを、あなたはどのように最高に表現できるでしょう。「それをどうか私に下さい！」と言うことによってでしょうか？それとも、「ありがとう」と言うことによってでしょうか？
2. あなたが神の子供であることを確信させるのは、感情ですか、それともあなたの信仰ですか？「あなたがたは恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物(たまもの)です。」(エペソ人への手紙2章8節)
3. あなたの主イエスに対する信仰には、次のものが含まれていますか。
 - ・悔い改めの要素
 - ・感謝の要素
 - ・イエスに完全により頼む態度
4. あなたは、神があなたを救ってくださったことに感謝し、また、主イエスがあなたにしてくださったことだけでなく、主イエスがどんなお方であるかということに対しても、主をほめたたえますか。

いかなる状況も、困難も、試練も、それが何であろうと、
まず神とキリストの元を通過せずに、
私の所に直接やって来ることはない。
もしも、私の元までわざわざ来たとするなら、
その時には理解できなくても、
それは大いなる目的を持ってやって来たのだ。
私がうろたえることを拒絶し、目をイエスに向けて上げ、
それが、神の御座(みざ)から、私の心に祝福となる
大いなる目的を持ってやって来たという事実を受け入れるのなら、
どんな悲しみも、もはや心をかき乱すことがない。
どんな試練も、私から武器を取り上げることがなく、
どんな状況も、私をおびえさせはしない。
なぜなら、主がどんなお方であるかという喜びに、
私は安心しているから。
これが信仰の勝利だ！

アラン・レッドパス

There is nothing – no circumstance, no trouble,
no testing – that can ever touch me until, first of all,
it has gone past God and gone past Christ, right through to me.
If it has come that far, it has come with a great purpose, which I may
not understand at the moment. But as I refuse to become panicky,
as I lift my eyes to His and accept it as coming from the throne of
God for some great purpose of blessing to my own heart,
no sorrow will ever disturb me, no trial will cause me to fret –
for I shall rest in the joy of what my Lord is.
That is the victory of faith!

Alan Redpath

第十章

次には何があるのか？

救いは完全に無償です！自分が救われるためにできる働きは、一切ありません。なぜなら、主イエスが、全部なさってくださるからです。

第九章で勧められていた祈り（あるいはそれに似た祈り）を真剣にあなたが祈った時、キリストへの信仰が、あなたを本当の神の子供にしたのです。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわちその名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」（ヨハネの福音書 1 章 12 節）

あなたは多分、「次は一体何だろう？」と思っていることでしょう。

弟子たちの元を離れ、死を征服し、天国に戻られるという使命に出かけられる直前、イエスが言われたことがあります。「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。」（ヨハネの福音書 15 章 4 節）主イエスは、この言葉によって、クリスチャン生活の中心的要素を説明されています。神の視点から言えば、信者が神のひとり子イエスにつながっているということは、そのクリスチャンが天国に無事に到着する時まで、そこに保たれ、守られるということの意味します。一方、人間の視点からは、本物の信者の内側に復活の主がつながっておられるため、信者の家族、友達、仕事仲間も、内在されるキリストによってしか説明できないような生活の質を、目の当たりにするようになっていくのです。

火の中にある金属製の火かき棒を想像してください。火かき棒を見て、「火の中に火かき棒がある」と言えるでしょう。しかし、その火かき棒をもう一度よく見た時、棒の先が真っ赤に焼け、「火かき棒の中に火がある」とも言えるということが、お分かりになるでしょう。今度は、バケツの水の中に浸かったコップを想像してみてください。コップは水の中にありますが同時に、カップの中にも水が入っているとも言えるのです！

あなたが再び生まれ変わった時、聖霊が実際にあなたをキリストの体の中へと、洗礼（バプテスマ）を授けて（浸して）くださいます。

そして今では、聖書がそれを確証してくれています。「あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。」（コロサイ人への手紙3章3節）そう、あなたはもう一度生まれたのですから、あなたは今や、キリストの内にいるのです。驚嘆すべきことです！更に、あなたが新しく生まれ変わった時、内在される復活のキリストの命が、聖霊の力によって、個人的で栄光ある現実となりました。「あなたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」（コロサイ人への手紙1章27節）あなたはそれを、自分のものとして喜べるのです。そして、再び生まれたことで、復活のキリストは、あなたの内に住まわれるようになったのです。素晴らしいことです！

「わたしがキリストの内におり、キリストがわたしの内におられる」という真理は、いわば双子の真理とも呼べますが、あなたに自由をもたらす力を持っています。その力について、聖書が更に何と言っているか見てみましょう。

私はキリストの内にいる

「なぜなら、私たちはみな、…一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、」（第一コリント人への手紙 12 章 13 節）

「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けたわたしたちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが、御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。」（ローマ人への手紙 6 章 3、4 節）

「あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。」（コロサイ人への手紙 3 章 3 節）

数年前、私はある白血病の少年を知っていました。当時、彼はまだ 7 歳で、脊椎注入のため 3 ヶ月ごとに医者のもとに通わなければなりません。ある時医者は、このダリル少年に、針が脊椎を突き通す時に、他の少年少女のように泣かないのはなぜかと尋ねました。医者が「痛くないのかい」と聞くと、ダリル少年は答えました。「はい、もちろん痛いですが。でも、先生、先生は分かっているのですね。針は僕に触れる前に、まずイエス様の手を貫かなければならないんですよ。」今や、あなたはキリストの内にいるのです。そして、キリストは、あなたの人生を試したり触れたりする事柄全てを十分に取り扱う力のあるお方です。これを知っていることは、何と素晴らしいことでしょう！これこそが信仰です！

人生が要求する一つ一つのことを満たすために、あなたが主イエス・キリストの力を用いることができるようになるのは、あなたが信仰によって主イエスを受け入れた時と同じ信仰の原則です。つまり、あなたが最初にとった信仰の行動は、あなたが継続して信仰の態度を適用して行くように扉を開けたのです。「あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、彼にあって歩みなさい。」（コロサイ人への手紙 2 章 6 節）

あなたは再び生まれましたが、神は、あなたがイエスの生涯をただ真似するようにと期待しているわけではありません。何百万という大勢のクリスチャンが、そうしようと試みては失敗し、苛立ちをつのらせてきました。しかし神は、私達がクリスチャンとして人生を生きるための、素晴らしい備えについて語ってくださっています。私達はキリストの内において既に死んでいます。ですから、私達は律法の全ての要求と責めに対しても死んでいるのです。つまり、私達は、過去においてそうであったように、現在においても、そして将来も、自分の努力で律法の要求を満たそうとする希望に対して死んだのです。そうです。自分で霊的な生活を生きられると思う自信のなごりに対して死んだのです。しかし、私達は、復活された主イエス・キリストの全ての守りと余りある力にあって光り輝いて生きているのです。神を誉めたたえましょう！

毎日の生活の中で起こる誘惑やプレッシャーに対し、どうにか自分で解決しようとする時、問題が発生します。新しく信者になった人は、新生を経験した後でも、以前と同様、自分自身でクリスチャンの生活をやっていけないことを自覚するでしょう。イエスは、こういった人間の傾向に対し、聖書から、はっきり警告しておられます。「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」（ヨハネの福音書 15 章 5 節）

実に、使徒パウロは、ガラテヤ地方の信徒たちに、人間の努力による愚かさについて、齒に衣を着せない言葉を使って話しました。パウロは、信仰によって、信仰のみに生きるという神の原則から離れてしまっていたガラテヤの信徒たちのやり方を正すため、質問自体が自明の答えを導く、修辭的な疑問を投げかけています。

「ただこれだけをあなた方から聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも、信仰をもって聞いたからですか。あなたがたはどこまで道理が分からないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。」（ガラテヤ3章2～3節）

もちろん、ガラテヤの信徒たちも、あなたと同様、信仰によって、キリストの内にある新しい生活を始めてはいました。そうしてくださった神に頼る信仰以外に、「ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。」（ローマ5章17節）ことを望めません。

悲しいことにガラテヤでは、神に頼る生き生きとした信仰は、律法主義的な自己の努力による実りのない不毛な行ないへとすり替えられてしまいました。しかし、神に感謝しましょう。あなたが新たに見出した主に頼って生き続けるなら、ガラテヤで起こっていたような悲しい状態を経験する必要は決してないからです！

キリストが私の内に生きている

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」（ガラテヤ人への手紙2章20節）

「もしキリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義のゆえに生きています。もし

イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。」（ローマ人への手紙 8 章 10 ～ 11 節）

「神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」（コロサイ人への手紙 1 章 27 節）

「こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。」（エペソ人への手紙 3 章 17 節）

例えば次のように、内在するキリストの命に信頼する信仰を、言葉に現すことができます。「主イエス様、ありがとうございます。私に無いものをあなたは全てお持ちです。私の内側で、そして私を通して、私でなくあなたが現れるようにしてください。」あなたのクリスチャン生活における驚くべき事実は、神があなたの成功の責任を、誰か別の人に移行させてくださったということです。すなわちそれは、主イエス・キリストです！あなたが人生の途上で必ず対面する様々な誘惑や数々の機会に対し、いつも余裕で十分に対応できる唯一の方は、イエスです。キリスト抜きで、あなたがいわゆる“神学者”になることは可能です。キリストなしに、説教者になることさえ可能でしょう。キリスト抜きで、宣教師（ミッシヨナリー）にさえ、なれるでしょう。しかし、もしキリストがあなたの心の内に住まわれていないならば、クリスチャンになることはできません。

クリスチャン生活を本当に生き抜いた唯一の人物は、イエスだけ

です。そしてイエスは現在、聖霊によって、奇跡的に、あなたの心の内側に住まわれるようになりました。イエスは、今まであなた一人では決してできなかったことを、あなたを通し、また、あなたのために、できるお方です。清いイエスが、不道徳で満ち溢れたこの世の中において、あなたの清さになってくださったのです。勝利者であるイエスが、誘惑だらけのこの世で、あなたの勝利となってくださいました。愛であるイエスが、自分ばかりを第一に追求しているこの世の中で、あなたの愛になってくださいました。そして、イエスはよみがえりです。御自身がよみがえりであり、命であるイエスが、今やあなたのクリスチャン生活そのものなのです。

「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」（ルカの福音書 19 章 10 節）あなたがへりくだって、人生を主イエスのために明け渡すなら、彼は、あなたを通して、失われた魂を捜して救ってくださることができるお方だと信じ、頼ることができます！クリスチャンが、他の人たちをイエスの命へつなぐ橋渡しの役目を果たしていると知る時、人生は本当にわくわくしたものになります。

覚えておいてください。イエスは天国に戻られましたが、私達を置き去りにしたのではありません。イエスは、自分の弟子たちを地上に残して出かけようとされていた時、言われました。

「いましばらくで、世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生きるのも、あなたがたも生きるからです。その日には、わたしが父におり、あなたがたがわたしにおり、わたしがあなたがたにおることが、あなたがたにわかります。」（ヨハネの福音書 14 章 19 ～ 20 節）

「神がキリストの内に私に与えてくださった供給源の全ては、ど

のようでしたら現実のものとなり、私の人生に適用することができるのだろうか？」と疑問に思われているかもしれません。それは良い質問です。頭で理解する信仰と経験による信仰との大きなギャップに気づいている証拠だからです。また、このように思われたあなたには、実際に機能する信仰を願う思いがあることを示しています。答えは単純です。キリストの勝利の人生とは、感謝をささげるといふ、クリスチャンの反応を通して発揮させられるということです。本物の信仰はいつも、「主に感謝します」と言います。

例えば、キリストにおける救いの信仰を最もよく現すには、どうしたらよいでしょう。それは、あなたの罪が赦されていることをキリストに感謝することによってです。また、あるものを必要としている時こそ、イエスがその必要そのものになってくださることに対し、イエスに感謝することができます。「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。」（ヘブル人への手紙 11 章 6 節）あなたが神に喜ばれたいと願うなら、あらゆる必要に対して主イエスが備えてくださっていることを、いつも神に感謝する信仰生活をしてください。

主イエスへの忠誠を尽くして苦しい迫害を受けた信者たちに宛てた手紙で、ペテロは、彼らを励ましました。「心の中でキリストを主としてあがめなさい（＝聖別しなさい、他のものとは別に離して取り分けておきなさい、全ての支配を委ねなさい）。」（第一ペテロの手紙 3 章 15 節）この中には、あなたの信仰のために迫害にあった時、どう対処していくかという神の秘訣が公開されています。イエスがあなたの人生の主であることをしっかり覚えておいてください。

旧約聖書にある神の名前の一つに、「アドナイ」というものがあったのを覚えているでしょうか。神は、私の主人であるという意

味での「主」を意味する言葉です。ペテロがクリスチャンたちに向けて「キリストをあなたの主として心の中で聖別しなさい」と励ました時、使ったのが、私の主人という意味での「主なる神」の概念でした。

主イエスが、あなたの人生の主人である時、あなたはイエスとの継続的な交わりを楽しめるようになります。その時に初めて、人生における日々のチャレンジや様々な機会に関し、イエスを完全に信頼でき、自由にされるのです。讃美歌の作者であるジョージ・マセソンは、次の詩を著しました。

主よ、私を捕らえてください。
そうすれば、自由になるのです。
私の剣を捨てるように強いてください。
そうすれば、私は征服者になれるからです。

一般に広く信じられている自由についての考え方とは逆に、本物の自由とは、私がしたいことをするための権利を持つことの中には見出されません。本物の自由とは、私がすべきことをするための力を持つことにあるのです！使徒パウロの言葉を思い出してください。「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」（ピリピ人への手紙4章13節）

1859年に起こった北アイルランドのリバイバルでは、何千という人々が、キリストの元に来ました。これら回心者達は、「信仰の献身」という文書に署名（サイン）することによって、個人的で真剣な献身を表現しました。当時、あまりにも多くの人々が、復活の主を体験し、生き方がすっかり変わったため、国全体の道徳的雰囲気が一変したほどでした。

そのような文書に署名することには、何も有益なことがないかも

しれませんが、ひょっとしたら、今、次のページの文書に署名することによって、あなた自身の神への応答をしっかりと固めるものになるなら、あなたに役立つかもしれません。

「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン」 (ヘブル人への手紙 13 章 20 ~ 21 節)



ハンガリーからの手紙

聖書と併せて、リチャード・A・ベネット博士著の「神を探す旅」を送ってくださり、ありがとうございました。本を読み終えて、本文中にあった聖書からの引用はすべて、聖書で確認しました。「神を探す旅」は、何を信じるべきか、そして、なぜ信じるべきか、ということをはっきりさせるのに、大変役立ちました。今では、私もクリスチャンです。この本の助けを借りて、生涯の信仰の献身を誓うことができました。

—トランスワールドラジオによって翻訳され、掲載され得た報告



次に続くページには、あなたが

信仰の献身

を自分のものにするのに役立つ
聖書の箇所が引用されています。



私の信仰の献身

父なる神を、私の神として受け入れます。
「あなたは、偶像から離れて神に立ち返って、
生けるまことの神に仕えるようになりました。」
(第一テサロニケ人への手紙 1 章9節)

イエス・キリストを私の主であり、救い主として受け入れます。
「神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、
このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。」
(使徒の働き5章 31 節)

私を神の愛で満たしてくださるお方として、聖霊を受け入れます。
「私たちに与えられた聖霊によって、
神の愛が私たちの心に注がれているからです。」
(ローマ人への手紙5章5節)

神の言葉を、私の規範(ルール)として受け入れます。
「聖書はすべて神の靈感によるもので、
教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。
それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい
十分に整えられた者となるためです。」
(第二テモテへの手紙3章 16、17 節)

神の民を私の民として受け入れます。
「あなたの民は私の民、あなたの神は私の神。」
(ルツ記1章 16 節)

自分を完全に主に捧げます。

「私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はなく、
また自分のために死ぬ者もありません。…
ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たち主のものです。」
(ローマ人への手紙 14 章 7、8 節)

それを、意図的に行ないます。

「…あなたがたが仕えようと思うものを、どれでも、今日選ぶが良い。
私と私の家とは、主に仕える。」
(ヨシュア記 24 章 15 節)

そして、心から行ないます。

「私たちがこの世の中で、特にあなたがたに対して、
聖さと神から来る誠実さをもって、人間的な知恵によらず
神の恵みによって行動していることは、私たちの良心のあかしするところであって、
これこそ私たちの誇りです。」
(第二コリント人への手紙 1 章 12 節)

そして、自分から自由に進んで行ないます。

「あなたの民は、あなたの戦いの日に、聖なる飾り物を着けて、
夜明け前から喜んで仕える。」
(詩篇 110 篇 3 節)

そして永遠に行ないます。

「私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、
迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。」
(ローマ人への手紙 8 章 35 節)

署名 : _____

日付 : _____



「神を探す旅」の著書が、その続編として執筆した

Food For Faith

「信仰の糧」

を、是非読まれるよう、お勧めいたします。

美味しそうな料理のレシピを読んでわくわくしても、
飢え死にすることさえ有り得るように、成功する生き方のレシピといえる
聖書の言葉に胸躍らせても、
霊的に栄養失調のままであることが有り得るのです。

「信仰の糧 (Food For Faith)」は、手中にある聖書、すなわち神の言葉を、
あなたの手から頭へ、そして頭から心へと移動させ、取り入れて
消化することを促す聖書のマニュアルとして書かれました。

